

## 第 3 調查研究

### 第3 調査研究

#### 1 厚生省多目的コホート

##### (1) 事業概要

厚生労働省の研究事業で生活習慣病に関するコホート研究を全国 12ヶ所で実施している。対象地区は具志川市と恩納村で平成元年 12月31日に在住していた昭和5年から昭和24年生まれの方を対象に平成2年度からスタートした。

##### (2) がん登録時における発見動機別進展度状況

沖縄県中部地区（具志川市・恩納村）がん登録者・・・1990～2004年

###### ア 乳がんの発見動機別進展度

(ア) 健診発見ケースと自覚症状で発見されたケースとの間に、進展度の差は見られない。

###### イ 大腸がんの発見動機別進展度

(ア) 健診発見ケースは自覚症状で発見されたケースに比べ、限局性進展が多い。

(イ) 自覚症状で受診した人は限局以外（所属リンパ節、隣接臓器進展）が多い。

###### ウ 胃がんの発見動機別進展度

(ア) 健診発見ケースは自覚症状で発見されたケースに比べ、限局性進展が多い。

(イ) 自覚症状で発見されたケースは限局以外（所属リンパ節、隣接臓器、遠隔臓器進展）が多い。

###### エ 子宮頸がんの発見動機別進展度

(ア) 健診発見ケースは自覚症状で発見されたケースに比べ、限局性進展が多い。

(イ) 自覚症状で発見されたケースは限局以外（所属リンパ節、隣接臓器進展）が多い。

(ウ) ただし、ケースが少ないため、結論は出せずに至らない。

##### (3) 対象者の状況

###### ア 転出、再転入について

平成17年の転出は計73名、累積で3,086名であった。再転入は計39名、累積で769名であった。

###### イ 死亡について

平成17年の総死亡数は118名であった。死因別には、がん45名、脳卒中11名、心筋梗塞15名であった。16年間の累積死亡1,301名中がんによるもの492名、脳卒中によるもの157名、心筋梗塞によるもの140名であった。対象者のこれらの割合は約60.6%となっている。

###### ウ 平成17年までのがん罹患確認累計で1,131名ID比（罹患/死亡）は2.30

(1,131/492)であった。臓器別では、大腸がん(251名)が最も多く、肺がん(133名)、胃がん(132名)、乳がん(116名)順であった。

年次推移を見ると、がんは平成2年38名に対し、平成16年101名と約2.7倍になっている。

###### エ 協力医療機関別疾病登録状況

14医療機関中、出張採録をしている県立中部病院、中頭病院からの登録が全数の87.5%を占めている。死亡票からの登録は5.6%、沖縄県地域登録（沖縄県がん登録事業、脳卒中情報システム事業）から9.0%が登録されている。

( 4 ) 地域連絡調整会議

ア 日 時：平成 17 年 7 月 29 日（金）午後 7 時半～ 9 時

イ 場 所：中部地区医師会 3 階ホール

ウ 参加者：参加者 57 人（協力医療機関、対象地区市町村職員、中部地区医師会）

エ 内 容：

(ア)厚生労働省多目的コホート研究の研究状況

(イ)最近の厚生労働省多目的コホート研究の今後の方向性

(ウ)厚生労働省多目的コホート研究の今後の方向性

( 5 ) 公開講座

ア 日 時：平成 17 年 7 月 30 日（土）午後 2 時～ 4 時

イ 場 所：カルチャーリゾートフェストーネ 多目的ホール

ウ 参加者：参加者 186 人

エ 内 容：

(ア)沖縄県のがんの特徴

講師：国立がんセンターがん予防・検診研究センター予防研究部  
室長 井上真奈美先生

(イ)がんになる人ならない人 ～科学的根拠に基づくがん予防～

講師：国立がんセンターがん予防・検診研究センター予防研究部  
部長 津金昌一郎先生

## 2 中部保健所障害児（者）等歯科保健サービス基盤整備事業

### （1）事業目的

障害児（者）が必要に応じて歯科治療、歯科保健サービスを生活圏内（中部管内）で受けることが出来るのが望ましい。しかし管内における障害児（者）の状況は十分把握されていない。

そこで管内の障害児（者）の実態を把握し関係者等と連携して管内の障害児（者）の歯科保健医療体制を構築し環境整備等に努めることを目的とする。

### （2）実施主体

中部保健所

### （3）事業内容

ア 中部地区歯科保健推進連絡会議開催

（ア）第1回：平成17年11月17日（木）

（イ）第2回：平成18年2月23日（木）

イ 管内の障害児（者）歯科保健サービスに関する実態調査の実施

（ア）施設アンケート調査

（イ）歯科医療機関アンケート調査

（ウ）保護者への聞き取り調査

ウ 障害児（者）施設での歯科検診・歯科保健指導

（ア）口腔内状況調査

（イ）歯科保健指導から見えた施設ごとの状況

エ 障害児（者）歯科研修会の開催

（ア）中部地区の障害児（者）の現状

講師：津留文子先生

（イ）中部地区の障害児（者）歯科保健について

講師：杉岡雅樹先生

オ 報告書の作成

### （4）事業成果

ア 中部地区歯科保健推進連絡会の立ち上げにより、中部地区の歯科保健の推進を図る体制ができ連携がとれるようになった。

「18年度中部地区デンタルフェア」にて障害児（者）コーナーが企画された。

イ 障害児（者）施設での歯科検診・歯科保健指導を行うことにより、利用者の口腔内状況の把握と、施設関係者や家族等の口腔ケアの啓発と強化につながられた。

### （5）課題

ア 障害児（者）の低年齢層からの歯周疾患の予防

イ 関係機関との連携及び専門機関の役割の明確化と保護者に対する情報提供の継続。

### 3 結核対策特別促進事業

事業報告書(H17年度)

都道府県(市・区)名: 沖縄県中部保健所

事業名	うちな一版地域DOTS～結・ゆいサポーター(地域DOTS協力者)育成事業				
事業の目的	<p>1) 背景</p> <p>結核予防法の一部を改正する法律(平成16年法律第133号)の施行により、入所命令等に関する取り扱い基準の適正運用と、DOTSの強力な推進が求められている。中部保健所では平成15年、16年と服薬中断が予測されるハイリスク者へ地域DOTS事業を実施し、所内支援体制の整備、医療機関との連携、結核予防婦人会への協力等地域DOTS支援体制が整備されつつある。しかし今後、服薬中の全患者に対して、DOTSを実施し治療脱落・中断を防ぐためには、薬剤師会、保健福祉サービス関係職員や結核婦人予防会等を活用した地域服薬支援者を増やしていく必要がある。</p> <p>2) 目的</p> <p>結核患者の治療脱落中断を防止するための地域DOTSを継続できる体制をつくる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 患者に応じた地域DOTSメニューの実施により、治療を完了させる。</li> <li>2 地域DOTSをとおして関係機関との連携を図り、地域DOTSにおけるそれぞれの役割を明確化する。</li> <li>3 地域服薬支援体制の整備のため地域DOTS協力者育成をする。</li> </ol>				
事業実施 対象地域の概要 罹患率、有病率等		14年	15年	16年	17年
新登録者数		99	96	104	
全結核罹患率		21.8 (25.8)	20.9 (24.8)	22.4 (23.9)	
全結核有病率		18.9 (25.4)	16.6 (23.3)	16.2 (21.4)	
平均肺結核入院期間		4.8 (5.2)	6.4 (4.8)	4.6 (4.5)	
平均全結核治療期間		10.4 (11.8)	9.5 (11.3)	8.6 (10.9)	
新登録者の30～59歳の率		34.3 (31.4)	38.5 (31.4)	31.7 (26.7)	
新登録者の60歳以上の率		50.5 (58.4)	59.4 (59.2)	64.4 (64.7)	
*治療成功率		85.3 (79.1)	79.3 (79.1)	83.8 (79.2)	
*治療脱落失敗中断率		0.0 (7.9)	6.9 (7.9)	3.2 (6.0)	
年末病状不明者		11.1 (17.8)	13.9 (16.8)	2.1 (13.8)	
	*喀痰塗抹陽性初回治療コホート中 *( )内は全国保健所平均値				
実施期間	平成17年4月1日～18年3月31日				
実施時期	平成17年4月1日～18年3月31日				
実施対象者 及びその規模	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 中部保健所管内における服薬中の全患者</li> <li>2 結・ゆいサポーター(地域DOTS支援者):市町村保健師、病院外来看護師、訪問看護師、在宅介護支援センター職員、ヘルパー、デイサービス職員、養護教諭、老人保健施設・老人介護施設職員、薬剤師会、結核予防婦人会、DOTS経験患者等で希望する者</li> </ol>				
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域DOTSの実施 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 所内コホート検討会の開催(1回/月):登録患者全例の服薬確認とDOTS実施対象者の選択 平成17年4月から平成18年3月まで毎月第3火曜日に実施(計12回) 服薬中の全事例を報告50～70例/月</li> <li>2) 所内DOTS検討会(1回/月):DOTS実施対象者の決定、DOTS方法 *医療機関(沖縄病院)や南部保健所、中央保健所からの参加(DOTS推進のための情報共有等) 平成17年4月から平成18年3月まで毎月1回計126例(新31、延べ126)実施</li> <li>3) 服薬支援者によるDOTS協力 事例:沖縄市1、うるま市1 結核予防婦人会:北谷町1人沖縄市2人(合計6回) 全事例服薬終了</li> <li>4) 中部保健所地域DOTS評価会議 日時:平成18年3月16日(木)15:00～16:00 場所:独立行政法人国立病院機構沖縄病院2階会議室 内容:地域DOTS実施報告、コホート検討会の報告 参加者:沖縄病院6名、中部保健所4名、健康増進課2名</li> </ol> </li> </ol>				

<p>事業内容</p>	<p>2 結・ゆいサポーター(地域DOTS協力者)育成</p> <p>1) 服薬支援者養成講座の開催 開催回数:4回 参加者:延67名(対象:中部地区結核予防婦人会) 開催場所:うるま市具志川中央公民館、宜野湾市中央公民館</p> <p>2) 薬剤師会へのDOTS事業協力についての説明会 日時:平成17年9月13日 20:00~21:00 場所:沖縄市 対象:中部地区薬剤師会役員 参加者数:12名</p> <p>3) その他 結核予防婦人会の研修会での発表のサポート</p> <p>①平成17年7月28日(木) 沖縄県主催平成17年度結核研修会 場所:自治会館 「DOTSをとおして結核予防婦人会にできること」</p> <p>②平成18年2月17日(金) 結核予防母親指導者講習会 場所:沖縄県婦人連合会館 「DOTSについて」</p> <p>3 地域DOTS推進のための研修会</p> <p>① 日時:平成17年12月16日(金)14:00~16:00 場所:中部保健所 3階研修室 対象:結核予防婦人会 参加者:41名 テーマ「結核予防推進のために」~DOTSを支える地域の底力~ 講師:(財)結核予防結核研究所 対策支援部長 小林典子</p> <p>② 日時:平成17年12月16日(金)19:00~21:00 場所:中部保健所 3階研修室 対象:医療従事者、介護関係者、ケアマネジャー 参加者数:85名 テーマ「地域DOTSの展開」~医療機関と保健所との連携~ 講師:(財)結核予防結核研究所 対策支援部長 小林典子</p>
<p>本事業を実施したことによる効果</p>	<p>1 患者に応じた地域DOTSの実施により、治療完了させることができた。</p> <p>2 DOTS事業を通して保健所と関係機関の連携の重要性がわかり、特に沖縄病院の病棟及び検査室との連携がとれるようになった。</p> <p>3 結核治療完遂という共通目標に向けて、関係者がDOTS体制における担うべきそれぞれの役割を明確にでき、確実な服薬支援体制がとれるようになった。</p> <p>4 地域DOTS協力者育成をすることで地域服薬支援体制の一翼を担うことができ、その活動を研修会で報告することにより他地区の婦人会や関係機関への波及効果が得られた。</p>

4 地域保健推進特別事業

(1) 管内市町村保健担当者の人材育成に関するモデル事業

事業名	管内市町村保健担当者の人材育成に関するモデル事業
目的	<p>管内における地域保健事業を効果的に推進するためには、市町村で地域保健に従事する職員の育成と組織体制が重要となる。しかし、管内市町村の保健事業に取り組む組織体制や人材育成に格差が大きく、保健事業の推進に影響を及ぼしている。</p> <p>そのため、管内市町村の地域保健に携わるリーダーのスキル向上を図り、市町村で人材育成の推進が出来ることを目的とする。</p>
事業概要	<p>管内市町村の職場におけるOJTの状況を把握し、保健事業を推進する上で課題となっていることを明らかにする。</p> <p>市町村で効果的な人材育成を推進するために、リーダーを対象にした研修会を実施する。</p>
事業内容及び事業結果	<p>1) 人材育成に関する調査  対象者：管内市町村で地域保健（福祉）に従事する課長、係長、一般職員全員  調査期間：平成17年10月17日～平成17年10月31日  内容：職場内教育の組織体制の現状等  方法：無記名方式。調査票を封筒に入れ、設置された回収箱又は郵送による方法で回収。  結果：配布数345、回収数241（回収率69.9%）  ・OJTの実践状況は17.4%と低く、その理由として業務多忙、組織体制がない、コミュニケーション不足等が挙げられている。また、少数ではあるが、OJTがわからない、力量がない等の記入も見られた。</p> <p>2) 研修会  地域保健（福祉）リーダー研修会  対象者：管内市町村地域保健（福祉）主管課長、係長、保健師のリーダー（保健師歴15年以上）  日程：平成18年1月25日～26日  内容：部下を育てる日常的な指導・育成方法  チームがうまくいく方法～事例を通して～  部下が動く不思議な力  方法：講演、グループワーク  結果：参加者（実人員19人、延人員33人）  「誰のために仕事をしているのか、原点に立ちもどって考えることが出来た」「係でOJTを実践し広げていきたい」等の意見があり、OJTに対する理解が得られ、実践への意欲がみられた。</p> <p>保健師リーダー研修会  対象者：保健師リーダー（係長以上、又は保健師歴15年以上）  日程：平成18年2月14日、2月22日、3月2日  内容：新人が個別支援ができる研修体制の確立を目指して  初回面接時の対応  関係機関から支援依頼があった時の対応  事例検討会の持ち方について  方法：グループワーク、ロールプレイ  結果：参加者（実人員9人、延人員18人）  「普段自分が行っている新人育成を振り返ることが出来た」  「“新人保健師が主体性を持って支援ができる”そこが育成する上で重要なこと」等の意見が寄せられ、市町村での実践が期待された。</p> <p>実施主体：沖縄県中部福祉保健所  協力機関等：管内市町村  年次計画：2年計画の1年度目  前年度までの補助額 平成16年度 0千円</p>

(2) 広域的な生活習慣病予防のための保健所機能強化事業

事業名	広域的な生活習慣病予防のための保健所機能強化事業
目的	<p>中部保健所管内において平成16年度までに14市町村中8市町村が健康増進市町村計画の策定を終えている。市町村健康増進計画を支援すると共に、健康おきなわ2010(県計画)を推進していかなければならない。保健所の広域的な役割として関係機関、関係団体と問題を共有し、生活習慣病予防を地域ぐるみで取り組むための推進体制づくりや一次予防のための環境整備を図ることが求められている。また、市町村の生活習慣病対策が効果的に取り組めるよう、市町村健康増進計画のモニタリングや評価における技術的支援が求められている。このように生活習慣病予防のための保健所機能強化を図り、保健所の健康づくり主管課の役割を構築して行くことを目的とする。</p>
事業概要	<p>中部地区健康おきなわ2010推進会議の開催          中部地区健康おきなわ2010推進大会の開催          保健事業関係者への研修会開催          一次予防のための環境整備          (受動喫煙防止推進事業・ヘルシーメニュー推進事業)          市町村健康増進計画のモニタリングと評価の支援</p>
事業内容及び事業結果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 中部地区健康おきなわ2010推進会議              設置目的：従来の連携の枠を超え、地域の関係機関・関係団体が参加し、生活習慣病の優先課題の共有化と地域ぐるみでの対策を検討し、健康おきなわ2010を推進する。              メンバー：市町村会、中部地区医師会、食品衛生協会中部支部、PTA代表、薬物乱用防止協会中部支部等              開催期日：平成17年8月18日、平成18年1月19日</li> <li>2 中部地区健康おきなわ2010推進大会              設置目的：関係機関及び関係団体が主体的に取り組めるよう実行委員会を開催。大会を通し、参加者が一体感を持ち、生活習慣病予防の取り組みの機運を高める。              メンバー：中部地区健康おきなわ2010推進会議、管内市町村、管内団体、住民等              開催期日：2月16日              場所：沖縄市美里公園、管内市町村車両パレード</li> <li>3 研修会開催              テーマ：「これからの健診 ～循環器疾患予防のために～」              講師：愛媛大学医学部 教授 小西正光先生              参加者：市町村保健事業関係者、職域健康管理関係者等52名</li> <li>4 一次予防のための環境整備             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 受動喫煙防止推進事業                  目的：受動喫煙防止対策の取り組みを支援する。                  *禁煙・分煙調査を23施設実施し、15施設を認定。</li> <li>2) ヘルシーメニュー推進事業                  目的：高校生を対象に健全な食生活の普及啓発と地域ぐるみの食育につなげる。                  *実行委員会を立ち上げ、関係者と連携を図り、高校生によるヘルシーメニューコンテストの開催。</li> </ol> </li> <li>5 市町村健康増進計画のモニタリングと評価の支援             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) モニタリングの指標づくり                  健康関連データの集積と課題を分析し、市町村及び関係機関に情報提供する。</li> <li>2) 目標達成するための具体的な事業計画になっているか、推進のための技術支援。</li> </ol> </li> </ol>

## 5 平成17年度母子保健強化推進特別事業

(趣旨)

沖縄県の平成17年度母子保健強化推進特別事業の目的である「乳幼児健診を活用した効果的な児童虐待予防対策」の一環として、中部保健所では児童虐待発生予防に視点をおいた母子保健事業を推進、強化するため以下の事業に取り組んだ。

(事業内容)

- 虐待相談事例の調査及び分析
- 中部福祉保健所管内児童虐待発生防止のための検討委員会
- 平成17年度中部保健所管内母子保健研修会
- 中部福祉保健所管内児童虐待発生防止に関する連携会議

### 【虐待相談事例の調査及び分析】

(1) 目的

児童虐待相談事例及び養育困難事例を分析し、児童虐待予防対策の充実・強化を図る。

(2) 調査対象

- ア 平成15年度のコザ児童相談所における3才児以下の相談事例
- イ 平成14年～平成16年度に中部福祉保健所管内の市町村保健師が関わった、児童虐待またはその疑いのある児童のうち、0才～就学前の事例
- ウ 平成14年～平成16年度に中部福祉保健所管内の市町村保健師が関わった、養育困難事例のうち、0才～就学前の事例

(3) 調査方法

- ア 調査票に担当者が記入し回収

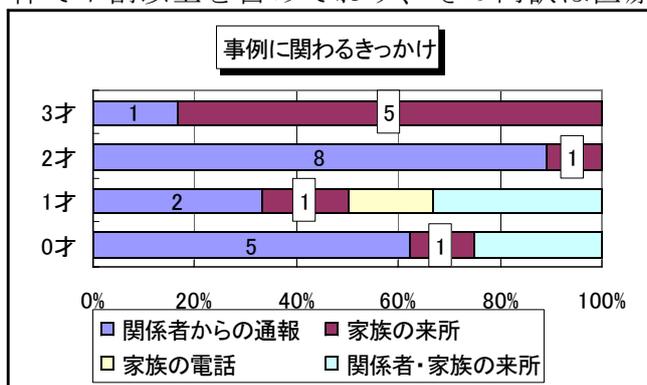
(4) 調査結果

ア コザ児童相談所虐待相談事例の結果

平成15年度のコザ児童相談所における児童虐待事例のうち、0才～3才までの事例数は29件、性別では男児14件、女児14件、年齢別では0才が8件、1才が6件、2才が9件、3才が6件の総数29件であった。

(ア) 事例に関わるきっかけ (相談経路)

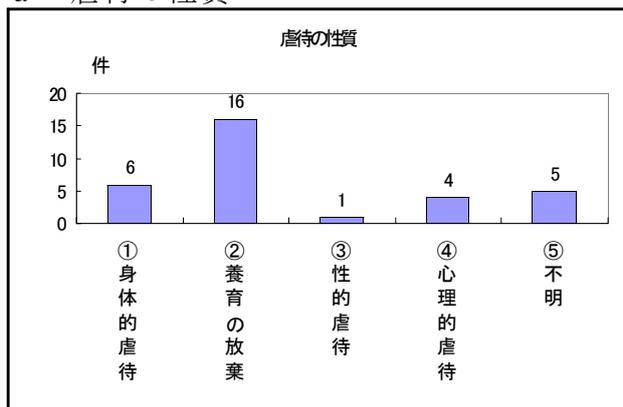
事例に関わるきっかけは、関係者からの通報が29件中16件、関係者の来所を含めると20件で7割以上を占めており、その内訳は医療機関から5件、隣近所から4件である。



内 訳	件数(複数回答)
医療機関	5
隣近所	4
福祉事務所	3
市町村福祉担当課	2
警察署	2
児童相談所	2
保健所	1
その他・不明	1

(イ) 児の状況

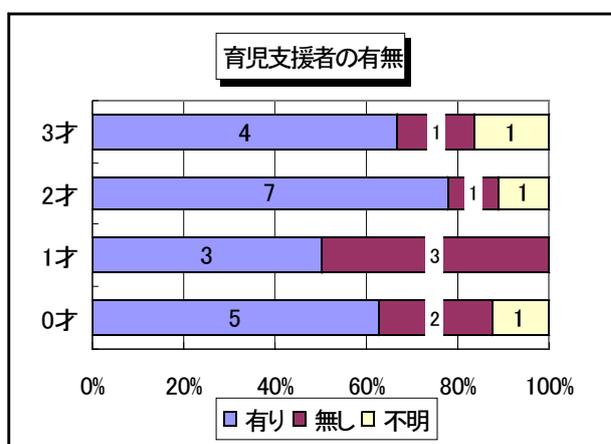
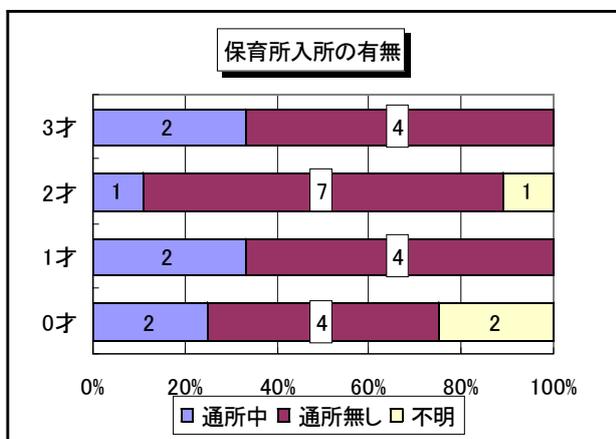
a 虐待の性質



虐待の性質としては、「養育の放棄または怠慢」が最も多く 16 件、次いで「身体的虐待」が 6 件、「心理的虐待」4 件、「性的虐待」1 件となっている。(複数回答)

b 保育所入所の有無及び育児支援者の有無

2 割強は保育所入所中、8 割は育児支援者ありとなっている。



c 乳幼児健診の受診状況

	対象数(件)	受診有り	未受診	不明
乳児健診前期	29	5	6	18
乳児健診後期	28	1	8	19
1歳半健診	22	0	4	18
3才児健診	14	0	1	11

乳児健診は前期、後期とも 6 割以上は「不明」、1 歳半健診及び 3 才児健診とも 8 割以上が受診状況「不明」となっている。

d 医療機関受診状況

定期受診有り	不定期に受診有り	受診不要	不明その他	計
2 (7%)	2 (7%)	5 (17%)	20 (69%)	29 件

e 保健師の訪問状況

市町村	市町村及び保健所	訪問無し	不明	計
3 (7%)	1 (3%)	2 (7%)	23 (79%)	29 件

(ウ) 虐待している者の状況

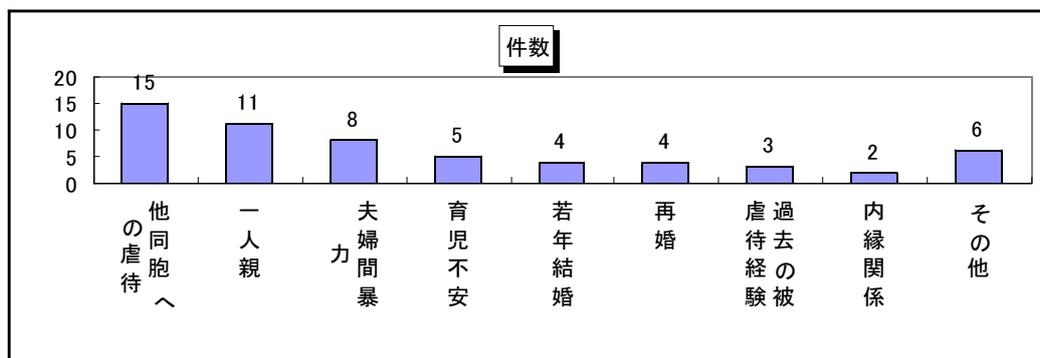
虐待している者は実母が最も多く 23 件 (約 8 割)、年齢別では 30 歳代が最も多く 14 件 (約 5 割) である。虐待している者の健康状態は、29 名中 18 名 (約 6 割) に何らかの健康問題がみられた。

また、29 件中 15 件は他の同胞への虐待がある。その他の要因として、「一人親」、「夫婦間暴力」、「育児不安」などがみられた。

a 虐待している者の続柄及び健康状態

続柄	問題なし	精神障害	知的障害	アルコール依存・傾向	その他	不明	計
実父				1		2	3
実母	5	5	2	1	8	2	23
養父					1	1	2
不明						1	1
計	5	5	2	2	9	4	29

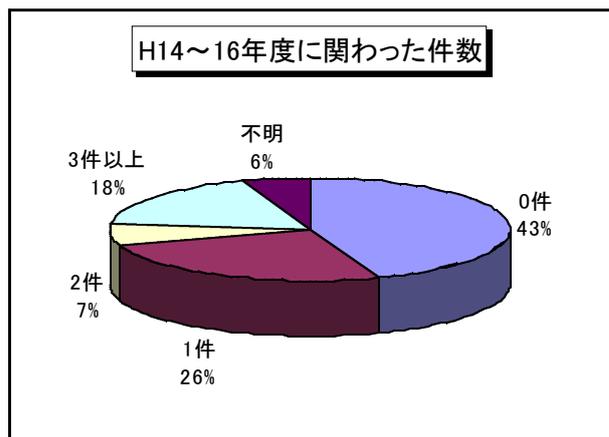
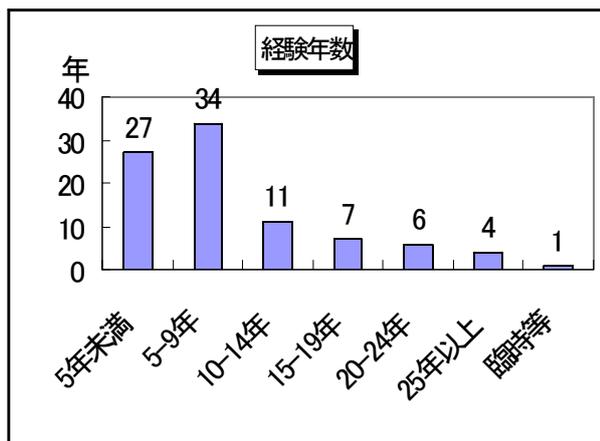
b 虐待している者のその他の要因



イ 中部保健所管内の母子及び精神保健担当保健師への全数調査

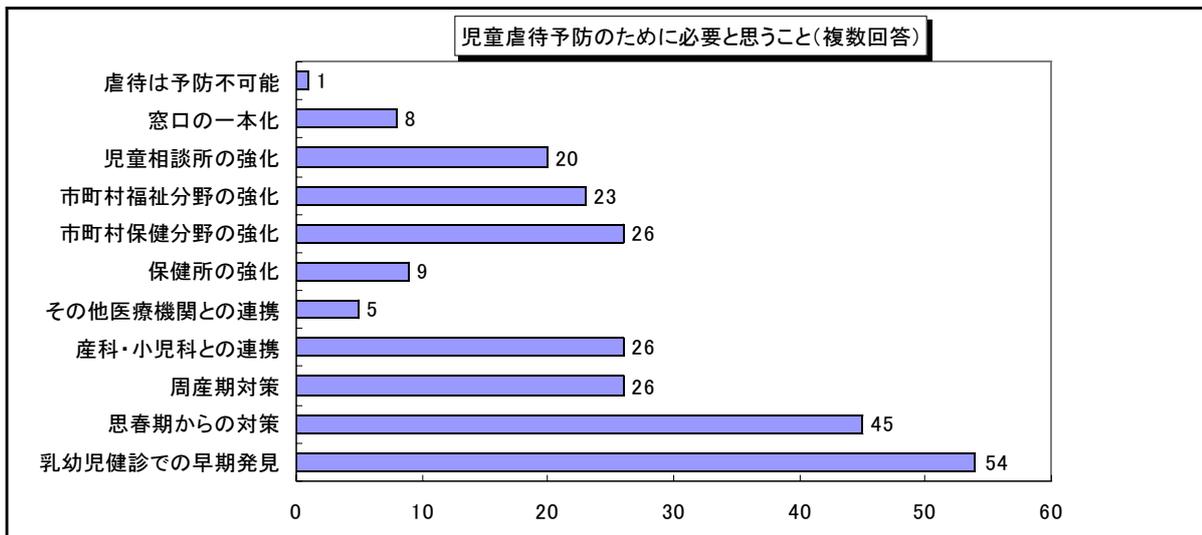
(ア) 経験年数及び関わった児童虐待相談事例の件数

回答があった 90 名の経験年数は、9 年未満が 61 名で約 7 割を占める。また、平成 14 年度～16 年度に関わった児童虐待事例については、44%が 0 件であった。



(イ) 「児童虐待予防のために必要なこと」

「児童虐待予防のために必要なこと」についての回答は、「乳幼児健診での早期発見」を挙げるものが最も多く、90 件中 54 件（6 割）、次いで「思春期からの対策」45 件等となっている。



ウ 中部保健所及び管内市町村保健師が関わった虐待相談事例調査結果

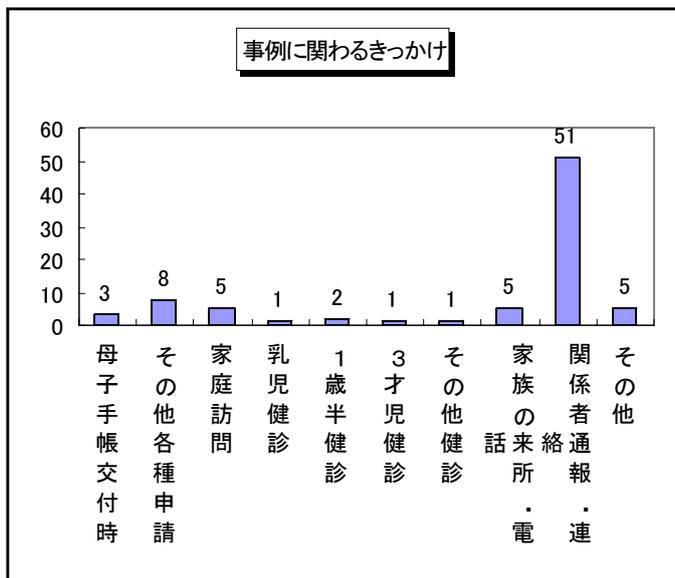
ー平成14年度～16年度に保健師が関わった児童虐待相談事例ー

報告があった事例は73件、0才児が22件、1才児11件、2才児8件、3才児17件、4才以上13件、不明2件であった。

(ア) 事例に関わるきっかけ (相談経路・複数回答)

事例に関わるきっかけは、「関係者からの通報・連絡」が51件と7割を占める。

関係者のうち分けは児童相談所から10件、市町村福祉担当課9件、医療機関8件等となっている。



関係者内訳	件数
児童相談所	10
市町村福祉担当課	9
医療機関	8
隣近所	7
福祉事務所	5
母子推進員	4
保育所	4
民生委員	2
市町村保健担当課	2
保健所	1
同居していない家族・親族	1
その他	2

(イ) 保健師の受け入れ状況

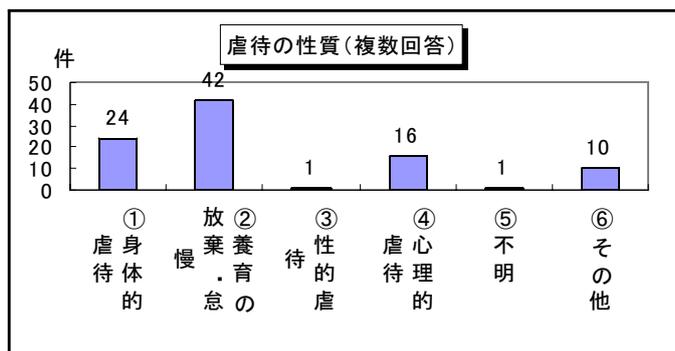
父母の対応	件数	関係者通報・連絡	
		件数	割合
拒否	4	4	100%
良好	50	33	66%
その他	17	14	82%
不明	2	0	—
計	73	51	—

保健師の受け入れ状況は、拒否が4件（世帯数2件）あった。「その他」17件の中には、面接不可のものや「拒否」とも「良好」ともいえないものが含まれている。

「拒否」の4件とも関係者からの通報・連絡から関わった事例であった。

(ウ) 児の状況

a 虐待の性質

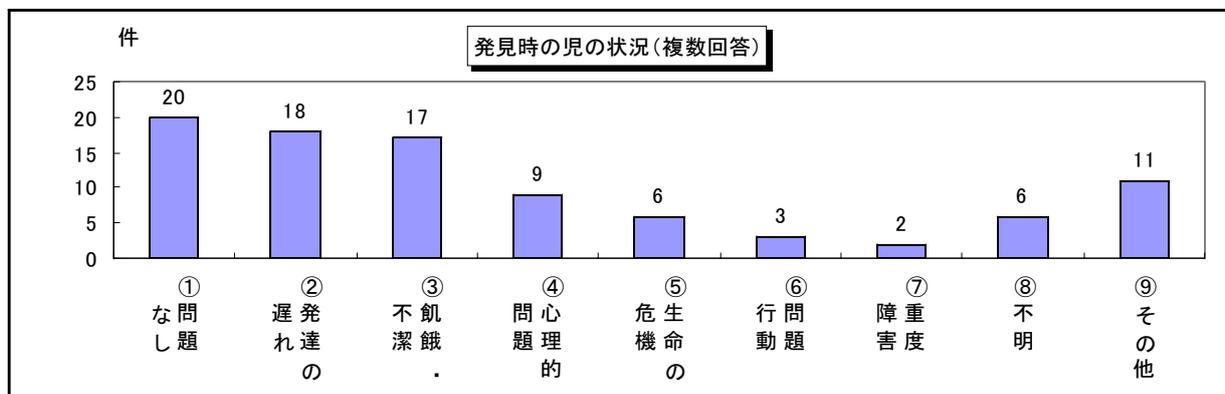


報告のあった 73 件の虐待の性質は、「養育の放棄・怠慢」が 42 件と最も多く、次いで「身体的虐待」24 件、「心理的虐待」16 件となっている。「その他」10 件の中には、「発作的に首を絞めたくなる」、「泣いていることが多い」、無記入が含まれている。

b 保育所入所の有無及び育児支援者の有無

保育所入所中は 73 件中 17 件 (約 2 割)、育児支援者有りは 44 件 (約 6 割) であった。

c 発見時の児の状況



その他 11 件の中には、「体調不良 (咳)」、「多動・自閉傾向」、「腸炎、男性保育士を怖がる」等が含まれている。

d 乳幼児健診の受診状況

	対象数 (件)	受診有り	未受診	不明
乳児健診前期	57	23 (40%)	18 (32%)	16 (28%)
乳児健診後期	47	18 (38%)	14 (30%)	15 (32%)
1 歳半健診	41	21 (52%)	11 (27%)	9 (22%)
3 才児健診	29	13 (45%)	11 (38%)	5 (17%)

乳児健診は前期、後期とも未受診が約 3 割、「不明」が約 3 割、1 歳半健診及び 3 才児健診とも約 3 割が未受診となっている。

(エ) 虐待者の状況

虐待事例 73 件のうち、13 件は複数の虐待者あり、虐待している者の総数は 86 件であった。

a 虐待者の年齢、続柄

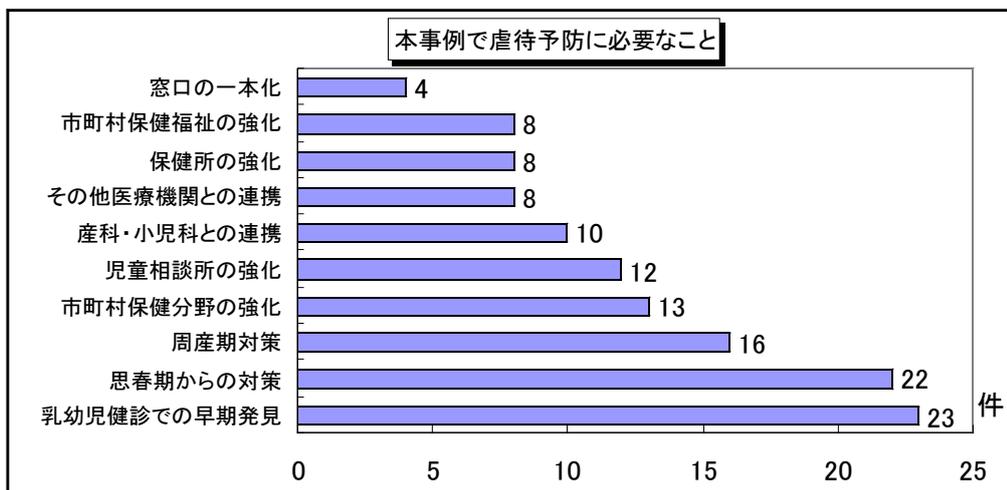
年齢別では 20 歳代が 34 件 (40%)、次いで 30 歳代 (34%)、続柄では実母 58 件 (67%) 次いで実父の 16 件 (19%) の順に多い。

b 虐待している者の健康状態

虐待している者 86 件中 19 件に下記のような健康上の問題があるが、「その他」の中にも「精神疾患疑い」、「難病」、「ブロン中毒」、「シンナー依存」、「体調不良」、「成人 T 型白血病」等 10 件を含めると 29 件、約 30%に何らかの健康上の問題がみられた。

続柄	問題なし	問題あり					その他	不明他	計
		身体障害	精神障害	知的障害	アルコール依存・傾向	慢性疾患あり			
実父	12				1	0	3		16
実母	25	1	9	5		1	18		59
養父	1								1
内縁関係	1	1							2
祖父					1				1
祖母	1			1			2		4
不明								4	4
計	40	2	9	6	2	1	23	4	87

c 本事例で虐待予防に必要な（だった）と思われること（複数回答）



本事例（73 件）で虐待予防に必要な（だった）と思われることについては、「乳幼児健診での早期発見」を挙げるものが最も多く 23 件、次いで「思春期からの対策」が 22 件だった。

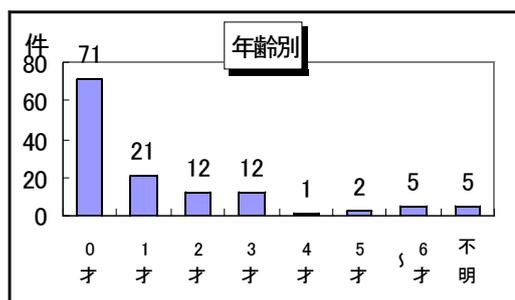
エ 保健師が関わった養育困難事例の調査結果

(ア) 事例の概要

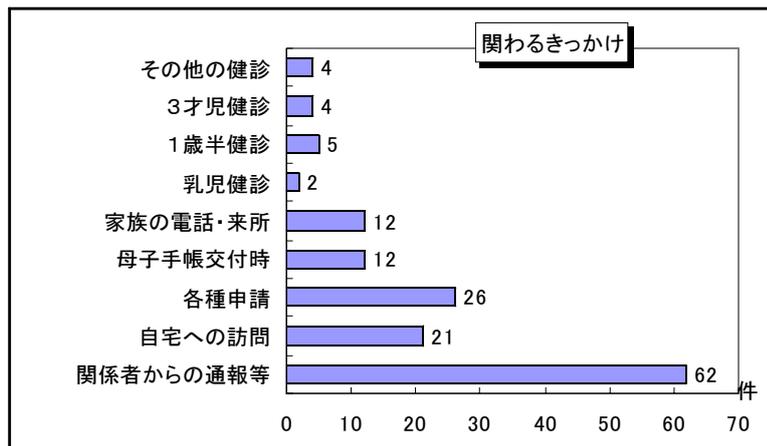
養育困難事例として回答があったのが 129 件で、事例の概要としては、「経済基盤が弱い」が 55 件（43%）、「母親の育児不安が強い」が 39 件（30%）等となっている。

年齢別には 0 才児が 71 件と最も多い。

内容（複数回答）	件	割合
母親の育児不安が強い	39	30%
母親にアルコール依存または精神疾患	21	16%
母または父が若年	32	25%
母子家庭等	32	25%
経済基盤が強い	55	43%
実数（延数）	129(234)	



(イ) 保健師が関わったきっかけ



事例に関わるきっかけは、「関係者からの通報・連絡」が62件と最も多く約5割である。乳幼児健診から関わったのは15件で12%であった。

関係者の内訳は、医療機関が26件と最も多い。

【中部福祉保健所管内児童虐待発生防止のための検討委員会】

(1) 第1回検討委員会（委員数9名）

日時：平成17年10月19日

場所：中部福祉保健所

内容：児童虐待に関する調査内容の検討その他

出席委員数：8名

(2) 第2回検討委員会

日時：平成18年2月16日

場所：中部福祉保健所

内容：調査結果中間報告、事業経過報告その他

出席委員数：8名

【平成17年度中部保健所管内母子保健研修会】

日時：平成17年12月16日

場所：沖縄市民会館中ホール

講師：徳永雅子先生（徳永家族問題相談室長）

内容：講演及び事例検討会

「発生防止に視点をおいた事例への関わり方」

参加者：44名（市町村25名、保健所関係19名）

【中部福祉保健所管内児童虐待防止に関する連携会議】

日時：平成18年3月22日

場所：中部福祉保健所

内容：①平成17年度母子保健特別強化事業について

②児童虐待相談事例調査結果について

③母子保健研修会の報告

④今後の取り組みについて

参加者：39名

市町村28名、コザ児童相談所2名、本庁1名、中部保健所5名

医療機関3名（中部病院小児科医師1名、上村病院看護師1名、ちばなクリニック看護師2名）

## 6 中部地区における精神科救急患者の受療行動について

### <目的>

本県の精神科救急医療については、平成10年度より精神科救急医療システムが整備され、休日・夜間等の外来診療時間外において精神科救急医療を必要とする者に適切な医療及び保護ができるようになってきた。

しかし、中部地区においては「精神科救急医療システムの圏域が広いため利用しにくい状況にある。効率のいいシステムになるよう検討して欲しい」との意見が平成16年度中部地区救急医療協議会の中で出された。

また精神科救急医療の中でハード救急とされている措置入院については、受け入れ病院先の調整に時間がかかり、迅速に対応できない状況である。

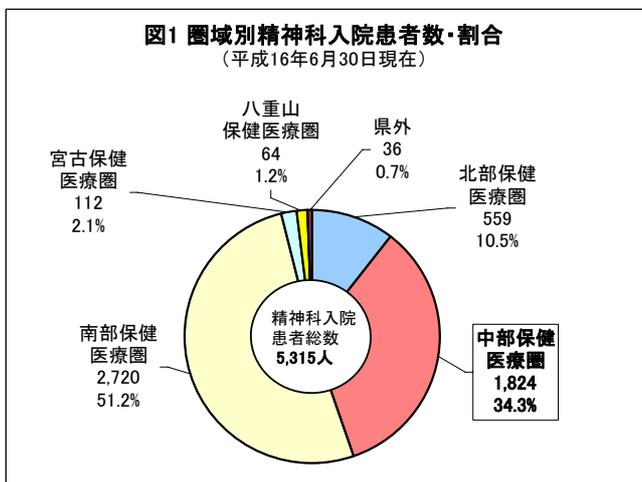
今回、中部地区の精神科救急医療システム受信の状況及び通報状況及び措置入院状況を調査し、中部地区における精神科救急医療の現状及び課題を把握し、精神科救急医療体制の整備に役立てる。

### <調査内容>

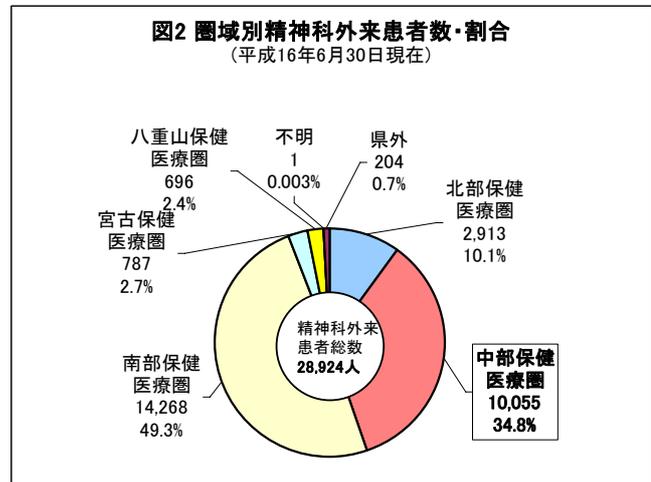
- (1) 平成16年6月30日現在における中部地区精神科入院及び外来患者の状況について
- (2) 平成16年度精神科救急システム受信状況について
- (3) 中部保健所における措置入院患者の状況について
- (4) 平成16年救急車搬送における急病患者の状況について

### (1) 平成16年6月30日現在における精神科入院及び外来患者の状況

#### 圏域別精神科患者数・割合（入院・外来）

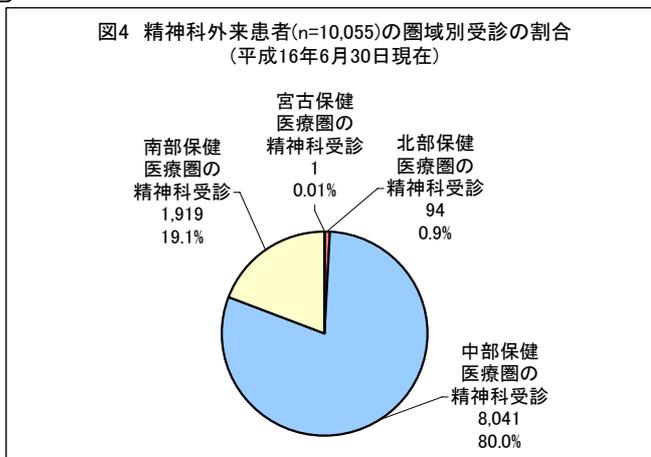
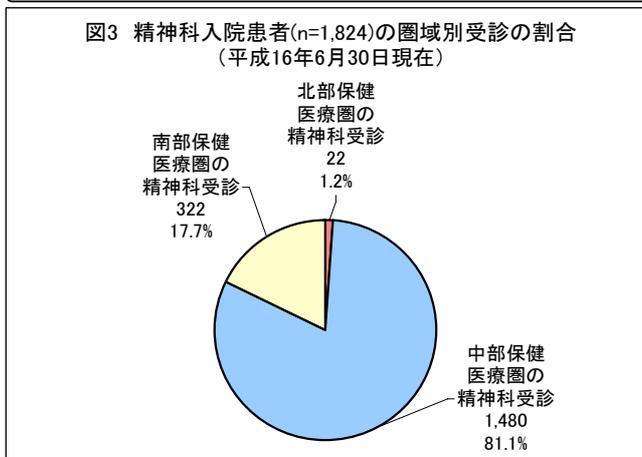


中部圏域の精神科入院患者の割合は34.3%(1,824人)となっていた。



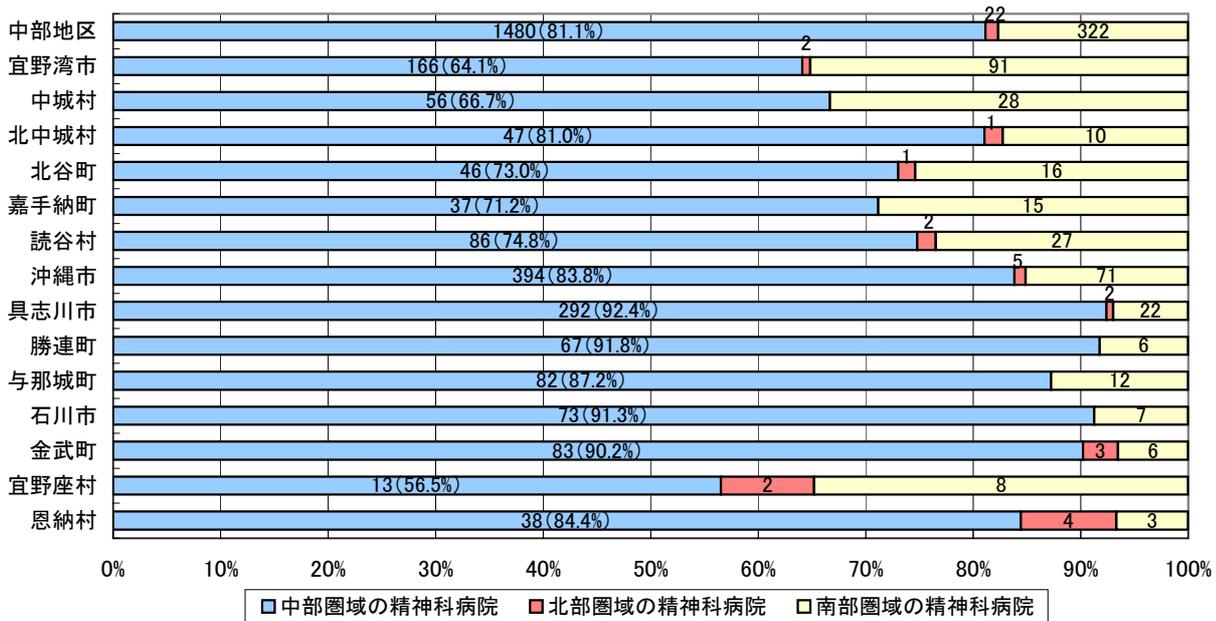
中部圏域の精神科外来患者の割合は34.8%(10,055人)となっていた。

#### 中部地区・精神科患者の受療行動（入院・外来）



平成16年6月の報告によると、中部地区の精神科患者の受療行動は、中部圏域の精神科医療機関で医療を受けている者は、入院81.1%、外来80%となっていた。南部圏域の精神科医療機関で医療を受けている者は、入院17.7%、外来19.1%、北部医療圏域の精神科医療機関で医療を受けている者は、入院1.2%、外来0.9%であった。

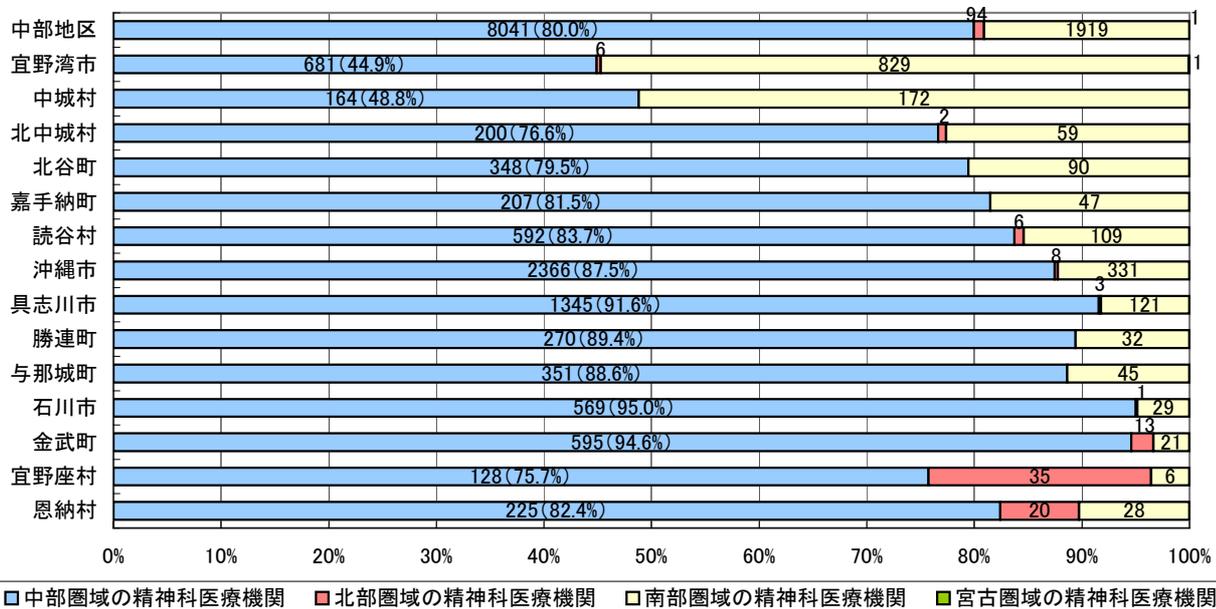
図5 平成16年度中部地区市町村別精神科病院入院患者数・割合



市町村別精神科入院患者の受療行動

- 北部圏域に隣接している宜野座村、恩納村、金武町においても、中部圏域の精神科医療機関に入院している者の割合が高かった。北部圏域の精神科医療機関に入院している者は、恩納村8.9%、宜野座村8.7%、金武町3.3%であった。
- 南部圏域に隣接している中城村、宜野湾市では、他の市町村に比べ南部圏域の医療機関の割合が高かった。

図6 平成16年度中部地区市町村別精神科外来患者数・割合

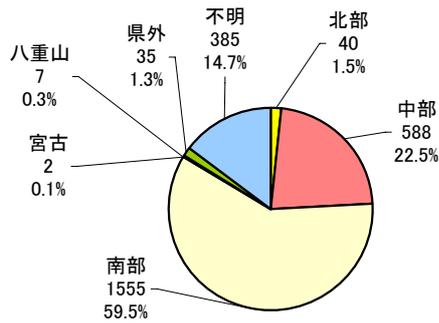


市町村別精神科外来患者の受療行動

- 北部圏域に隣接する恩納村、宜野座村、金武町では、北部圏域の精神科医療機関の受診はあるものの、中部圏域の精神科医療機関受診の割合が最も高い。
- 南圏域に隣接している中城村、宜野湾市では、南部圏域の精神科医療機関受診の割合が若干高い。

(2) 平成16年度精神科救急医療システム受信状況

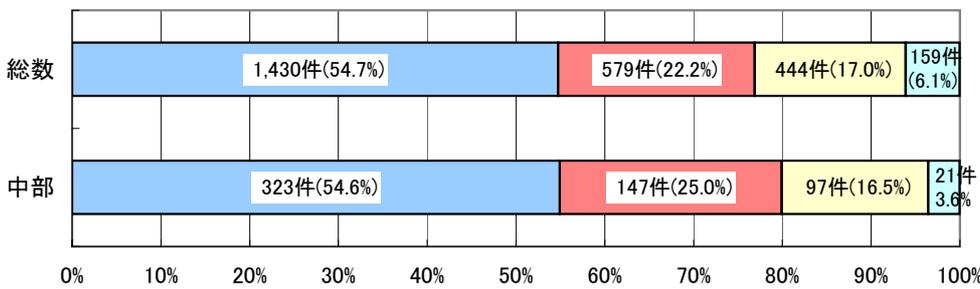
図7 圏域別・精神科救急医療システム受信の割合 (n=2,612)



精神科救急医療システムの受信件数を圏域別で見ると、南部医療圏が6割を占めており、中部医療圏は558件(22.5%)となっていた。

図8 精神科救急医療システム 相談者別受信状況

■本人 ■家族 □関係機関 □その他



相談者別では、約5割が本人からの相談で、次いで家族からの相談、関係機関からの相談となっていた。

図9 関係機関の内訳(総数 n=444)

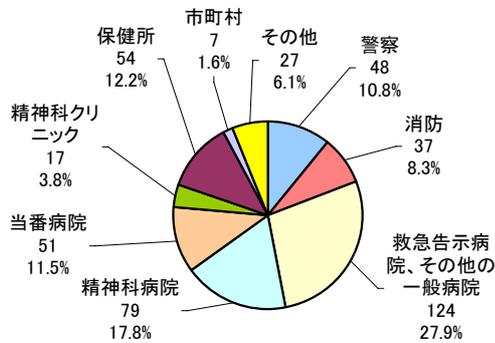
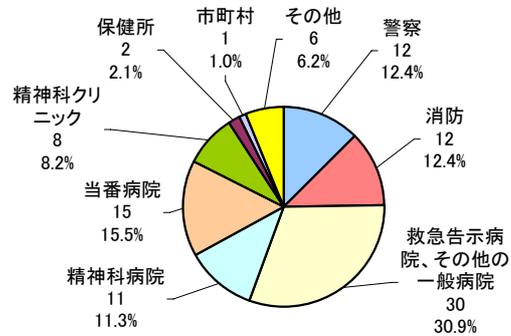
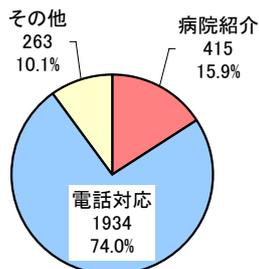


図10 中部地区 関係機関の内訳 (n=97)



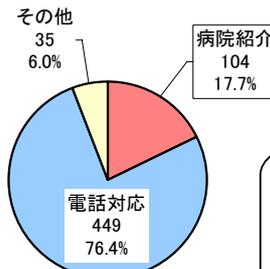
対応別受信の割合

図11 精神科救急医療システム 対応別受信の割合(総数 n=2,612)



中部地区の内訳

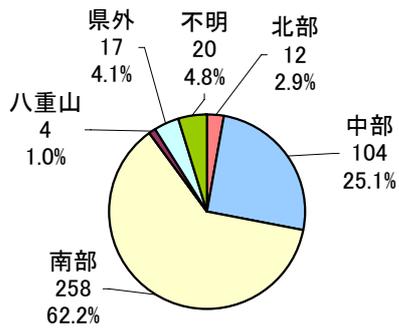
図12 精神科救急医療システム 対応別受診の割合(中部地区 n=588)



精神科救急医療システム受診588件のうち、病院紹介となったのは104件(17.7%)であった。

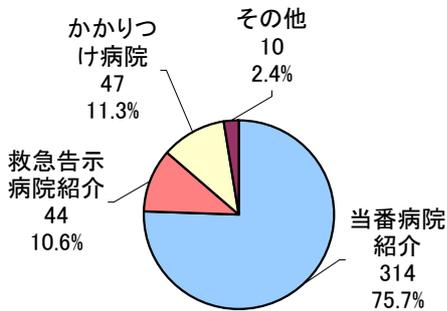
病院紹介の内訳

図13 圏域別病院紹介の割合(n=415)



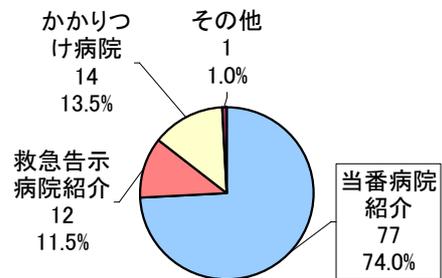
病院紹介において、中部医療圏は25.1%(104件)となっており、南部医療圏が約6割を占めていた。

図14 精神科救急システム 病院紹介の内訳 (総数 n=415)



中部地区の内訳

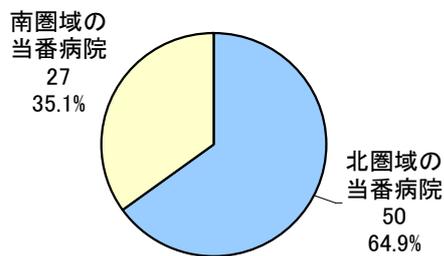
図15 精神科救急システム 病院紹介の内訳 (中部地区 n=104)



病院紹介の内訳をみると、当番病院への紹介が、約7割占めていた。

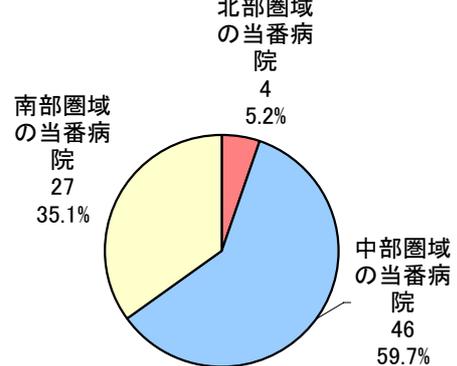
当番病院紹介の内訳 (中部地区)

図16 中部地区 精神科救急医療システムの圏域別当番病院紹介の内訳(n=77)



当番病院を圏域別にみると、約6割が北圏域の当番病院に紹介されていた。

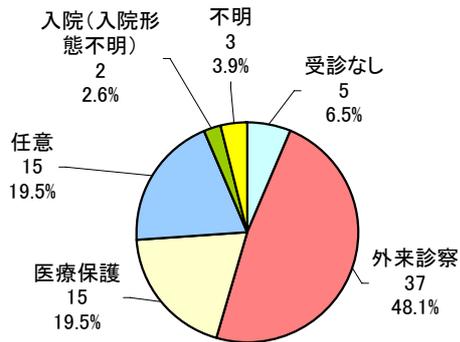
図17 中部地区 圏域別当番病院紹介の内訳 (n=77)



医療圏別でみると、中部圏域の当番病院へ紹介となったのが59.7%、南部圏域の当番病院への紹介が35.1%となっていた。北部圏域の当番病院へ紹介となったのは、5.2%(4件)であった。

当番病院紹介後の結果（中部地区）

図18 当番病院紹介後の結果（中部地区）  
(n=77)



当番病院紹介後、外来診察のみで終了したのが37件（48.1%）で、入院となったのが32件（41.6%）となっていた。

かかりつけ医の状況（当番病院紹介のうち）（中部地区）

図19 かかりつけ医の有無  
(当番病院紹介77人中)

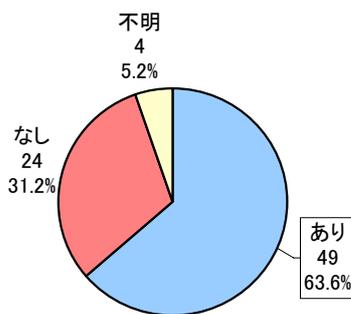
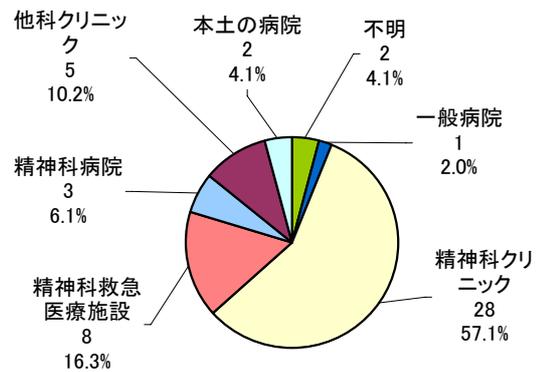


図20 かかりつけ病院の内訳(n=49)

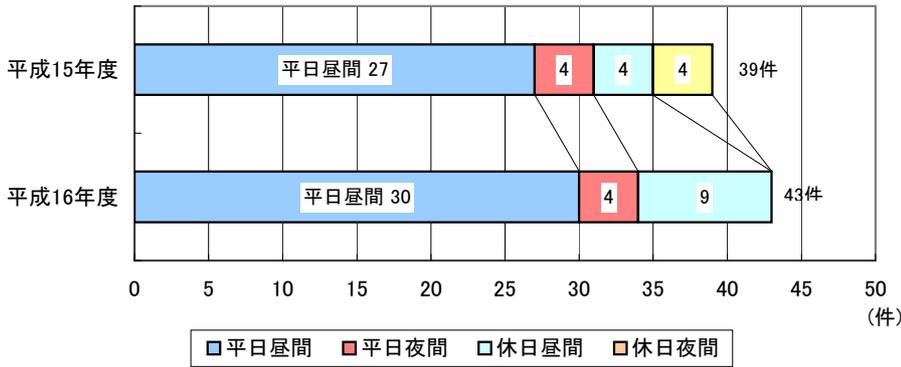


当番病院に紹介された77人中、かかりつけ医有りが49件（63.6%）で、内訳は精神科クリニック28件（57.1%）、精神科救急医療施設8件（16.3%）、精神科以外のクリニックが5件（10.2%）となっていた。

(3) 中部保健所における措置入院患者の状況

通報件数及び割合(時間帯別)

図21 年度別・時間帯別通報件数



通報件数は、平成15年度が39件、平成16年度が43件となっていた。  
時間帯別では、平日昼間の通報が約7割を占めていた。

図22 通報時間帯(平成15年度) (N=39)

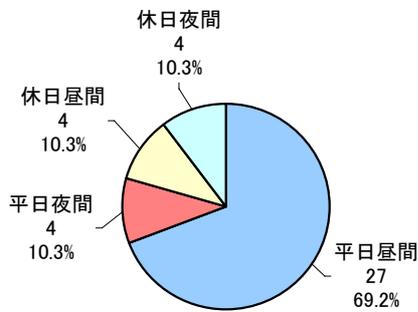
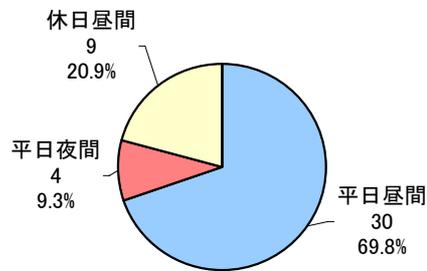


図23 通報時間帯(平成16年度) (N=43)



通報後の結果について

図24 通報後の結果(平成15年度)

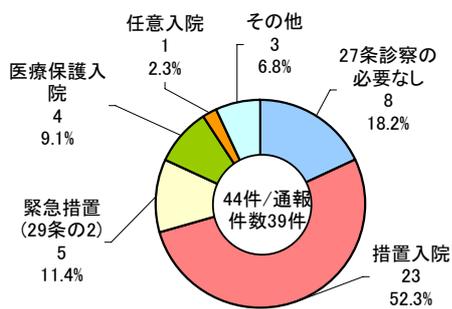
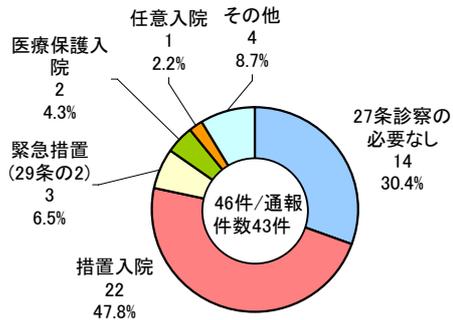


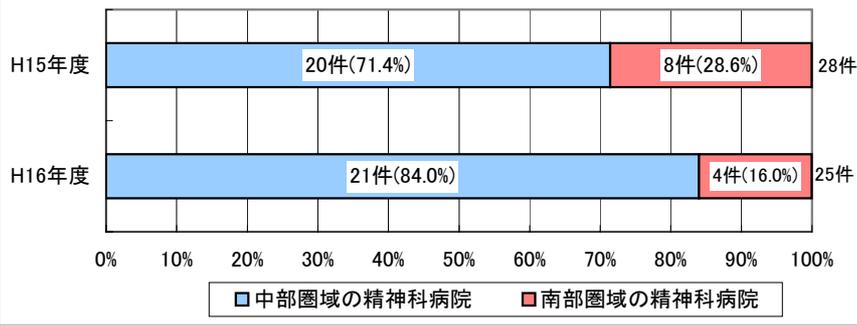
図25 通報後の結果(平成16年度)



通報後、緊急措置・措置入院となったのが、平成15年度は28件(63.7%)、平成16年度は25件(54.3%)あった。  
\*平成15年度の緊急措置の5名は、72時間以内に手続きを取って、措置入院となっている(措置入院にその5名も含まれる)。  
平成16年度の緊急措置3名についても同様(措置入院にその3名も含まれる)。

緊急措置・措置入院患者の入院先

図26 中部地区 緊急措置・措置入院患者の入院先・圏域別件数・割合



中部圏域の精神科病院に入院措置となった患者は、平成15年度では20件(71.4%)、平成16年度では21件(84.0%)となっていた。

	H15年度	H16年度
管内調整ができなかった	3	1
かかりつけ病院が南部圏の医療機関だった	2	
当番病院が北圏域(北部)だったため、南圏域の医療機関に入院となった	1	1
休日・時間外のため(精和病院)	1	
身体合併があった(琉大病院)	1	1
当番病院が措置入院の指定病院でなかったため		1
合計	8	4

措置入院患者の男女別状況

図27 平成15年度(n=23)

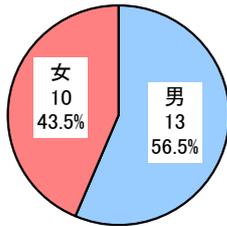
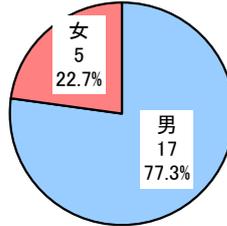


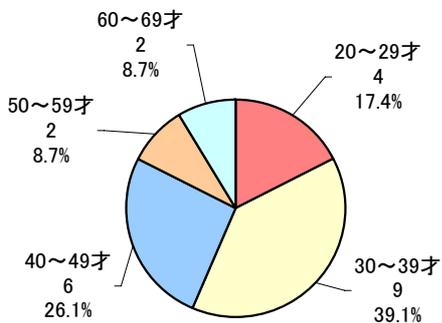
図28 平成16年度(n=22)



措置入院患者を男女別にみると、男性が多く、平成15年度では13人(56.5%)、女性では17人(77.3%)となっていた。

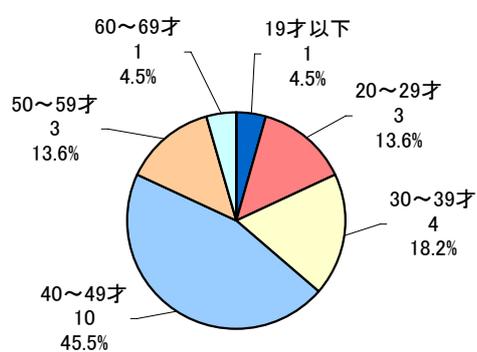
措置入院患者の年齢区分別状況

図29 平成15年度 措置入院患者の年齢区分別割合(n=23)



年齢区別では、平成15年度では30代が9名(39.1%)と最も多く、次いで40代が6名(26.1%)となっていた。

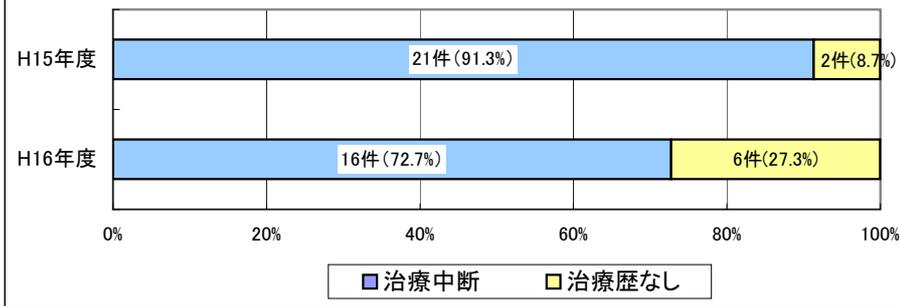
図30 平成16年度 措置入院患者の年齢区分別割合(n=22)



平成16年度では40代が10名(45.5%)と最も多く、次いで30代が4名(18.2%)となっていた。

措置入院患者の治療状況

図31 措置入院患者の治療状況



被通報者の治療状況を見ると、治療中断が平成15年度では21件(91.3%)、平成16年度では16件(72.7%)となっていた。

(治療歴なしの年齢区分)  
 \*平成15年度(2名)・・・40代  
 \*平成16年度(6名)  
 ・20代・・・2名  
 ・30代・・・2名  
 ・40代・・・2名

措置入院患者の疾患別内訳

図32 平成15年度(n=23)

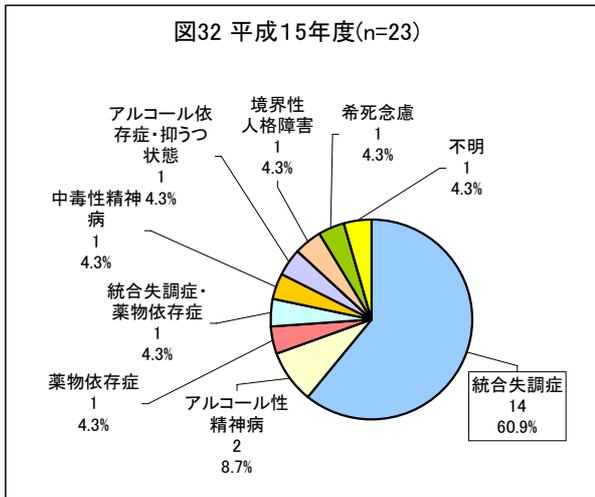
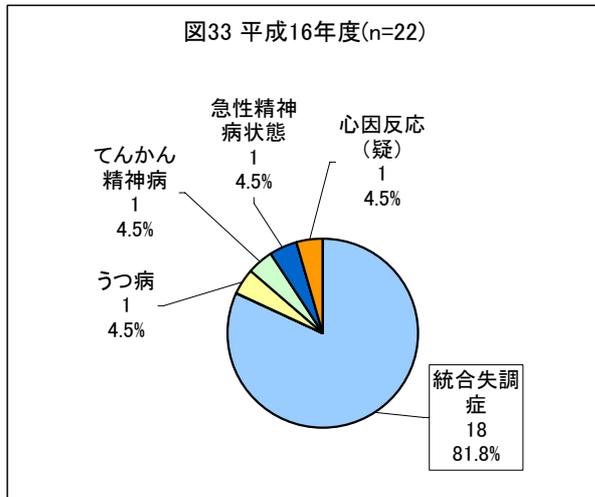


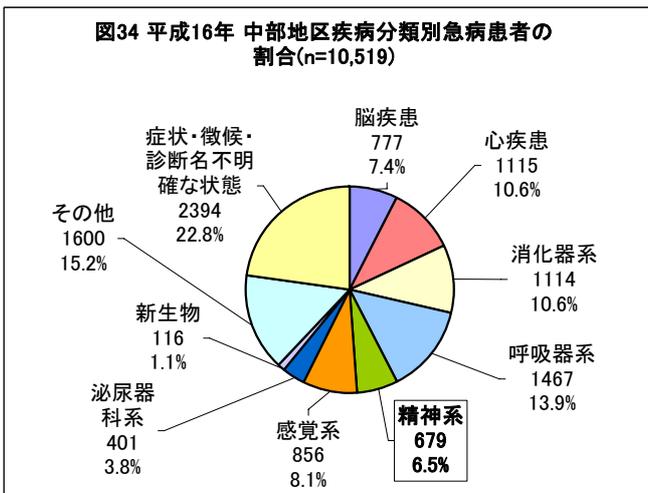
図33 平成16年度(n=22)



措置入院患者の疾患別内訳をみると、統合失調症が多く、平成15年度では14件(60.9%)、平成16年度では18件(81.8%)となっていた。

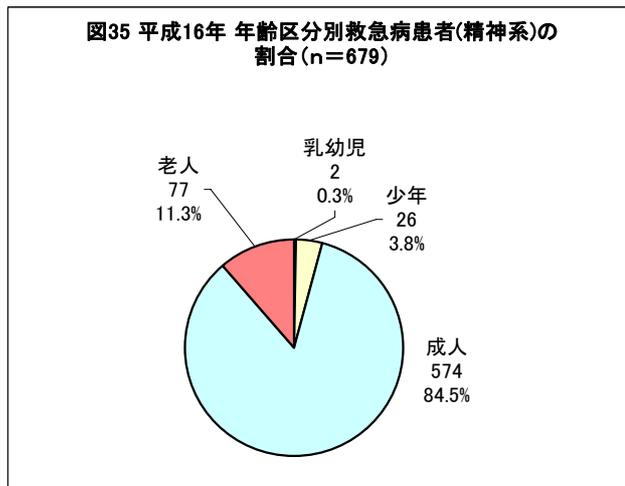
(4) 平成16年度救急車搬送における急病者の状況

図34 平成16年 中部地区疾病分類別急病者の割合(n=10,519)



疾病分類別でみると、精神系は6.5%(679件)となっていた。

図35 平成16年 年齢区分別救急病患者(精神系)の割合(n=679)



精神系疾患で搬送された患者を年齢区分別にみると、成人が約8割を占めていた。

## 7 中部地区の地域医療支援病院における地域医療連携の状況について

<p>&lt;目的&gt;          近年の人口の少子・高齢化、疾病構造の変化、医療技術の進歩など、医療をとりまく環境の変化を背景として、患者がそれぞれの疾病に応じて最適な医療サービスが受けられるように地域医療の機能分担を図り、医療の連携を推進することが重要となっている。          今回、中部地区の地域医療支援病院を対象に調査を行い、地域医療連携の状況及び課題を把握することにより、今後の中部地区の医療体制の構築に役立てる。</p> <p>&lt;調査対象&gt; 県立中部病院、中頭病院</p> <p>&lt;調査内容&gt;          平成16年度紹介患者・逆紹介患者の状況          ○紹介率・逆紹介率          ○紹介患者の状況（圏域別、診療科別、施設別、登録医からの紹介状況）          ○逆紹介患者の状況（圏域別、診療科別、施設別）</p>
---

表1 平成16年度 中部地区・地域医療支援病院の状況

	県立中部病院	中頭病院
紹介率(平成16年4月1日～平成17年3月31日) (①+②)÷③×100	61.5%	95.5%
①紹介患者の数 *紹介加算された数	6,625人	6,815人
②救急患者の数 *緊急的に入院し治療を必要とした患者(初診に限る)	4,918人	1,949人
③初診患者の総数 *初診算定患者数-(救急患者数-緊急入院の数)	18,780人	9,175人
逆紹介率(平成16年4月1日～平成17年3月31日) ④÷③×100	30.5%	41.1%
④他の病院または診療所に紹介した患者の数 *診療情報提供料を算定した患者数(逆紹介加算患者数)	5,733人	3,774人
共同利用の実績		
共同利用を行ったことのある医療機関の延べ数	19件 (平成16年9月～平成17年3月)	32件
開設者と直接関係のない医療機関の延べ数	19件 (平成16年9月～平成17年3月)	32件
共同利用に関わる病床の病床利用率〔開放病床数〕	225.6%〔5床〕 (平成16年9月～平成17年3月)	182.8%〔20床〕 (平成16年4月～平成17年3月)
登録施設数(中部保健医療圏内)	54施設(46施設)	190施設(142施設)
手術利用件数	0件	0件
高額機器(CT・MRI)共同利用件数及び共同利用の範囲等	253件 ・放射線治療 66件 ・核医学検査(RI) 159件 ・CT 15件 ・FGS 10件 ・腹部エコー 3件 ※MRIは機器が古いため共同利用の提供はしていない。	943件 ・MRI 490件 ・CT 453件 ・登録医に対し、当病院の施設、設備、機器の全てが共同利用可能。 ・主な共同利用は、腹部エコー検査、心エコー検査、ドレッドミル検査、24時間ホルター心電図解析検査、16列マルチスライスCT(全身用コンピューター断層撮影)装置、血管造影(アンギオ)装置、骨塩量測定機器、1.5テスラMRI(磁気共鳴コンピューター断層撮影)装置、内視鏡、超音波内視鏡、乳がん撮影(マンモグラフィ)装置、体外衝撃波結石破碎装置(ESWL)
研修実績		
開催回数	391回	113回

(1) 平成16年度県立中部病院における紹介患者・逆紹介患者の状況

ア 県立中部病院紹介患者の状況(平成16年度)

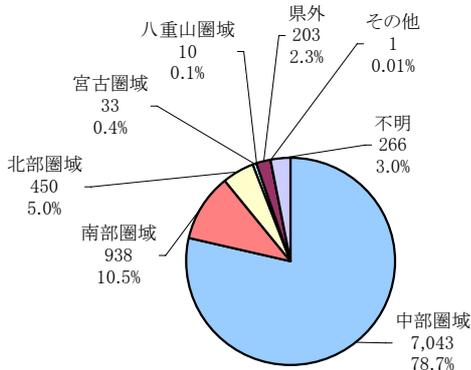
表2 平成16年度中部病院紹介患者数(圏域別・診療科別・施設等区分別)

(件)

圏域	施設区分	内科	診療科											外科	小児科	整形外科	産婦人科	泌尿器科	眼科	耳鼻咽喉科	口腔外科	脳外科	形成外科	皮膚科	精神科	放射線科	救急	未設定	総計
			一般内科	総合内科	神経内科	血液内科	腎臓内科	呼吸器内科	感染症内科	消化器内科	循環器内科	皮膚科	泌尿器科																
中部	病院	833	97	81	101	48	99	127	30	101	149	234	192	192	117	309	65	43	52	15	109	17	23	21	83	56	20	2,189	
	一般診療所	1,324	120	66	143	69	164	164	45	134	419	263	492	144	211	69	197	148	41	70	29	118	20	78	65	31	3,300		
	歯科診療所	11	2	1	0	1	3	1	0	1	2	1	1	0	2	0	0	4	307	0	2	0	0	1	0	4	333		
	老健施設・特養等	193	26	28	24	4	19	39	21	22	10	18	0	23	5	8	1	1	1	5	0	8	0	0	12	6	281		
	市町村・保健所等	9	0	2	0	0	3	1	2	1	0	0	3	4	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	20		
	健診機関	390	53	30	38	19	68	72	21	44	45	190	9	9	67	31	35	13	0	3	0	1	0	0	0	13	761		
	健診等 (乳幼児・住民健診・産業医等)	31	8	6	4	2	3	4	0	2	2	4	84	15	3	3	8	5	0	2	1	3	0	0	0	0	159		
中部合計	2,791	306	214	310	143	359	408	119	305	627	710	781	312	597	178	284	223	364	189	49	153	43	162	133	74	7,043			
南部	病院	135	6	5	16	13	17	20	5	15	38	58	30	25	50	14	12	20	3	10	14	5	8	4	3	2	393		
	一般診療所	54	5	2	5	1	13	12	3	1	12	19	11	3	20	13	6	9	2	7	6	0	7	0	3	2	162		
	歯科診療所	3	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	21		
	老健施設・特養等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
	市町村・保健所等	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2		
	健診機関	230	37	20	8	16	30	55	13	30	21	96	3	2	7	3	3	0	0	0	0	0	0	0	2	8	354		
	健診等 (乳幼児・住民健診・産業医等)	2	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4		
その他	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1			
南部合計	426	48	27	29	31	62	87	23	46	73	173	48	30	77	31	21	29	21	17	20	5	15	4	8	13	938			
北部	病院	69	2	2	8	15	10	2	2	5	23	52	17	8	67	3	26	27	7	2	5	1	2	12	1	3	302		
	一般診療所	19	0	1	4	0	3	3	0	4	4	3	4	0	34	4	16	5	1	2	0	3	0	0	1	1	93		
	歯科診療所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	24	0	0	0	0	0	0	0	25		
	健診機関	22	3	0	1	2	1	6	0	9	4	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	29		
	健診等 (乳幼児・住民健診・産業医等)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
北部合計	111	5	3	13	17	14	11	2	9	37	59	21	8	102	7	43	34	32	4	5	4	2	12	2	4	450			
宮古	病院	9	0	0	0	0	1	1	0	0	7	6	2	1	4	0	0	5	0	0	1	1	0	0	1	30			
	一般診療所	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2			
	歯科診療所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1			
	宮古合計	10	0	0	0	0	1	2	0	0	7	6	2	1	5	0	0	5	1	0	0	1	1	0	0	1	33		
八重山	病院	2	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4		
	一般診療所	2	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5		
	児童福祉施設等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1			
	八重山合計	4	0	0	0	1	1	1	0	0	1	2	0	0	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	10		
県外	病院	48	3	1	4	2	15	6	1	4	12	14	28	9	25	10	4	7	1	6	0	1	2	0	2	1	158		
	一般診療所	10	0	0	2	1	3	1	0	1	2	0	2	1	19	0	2	3	0	1	0	0	1	0	1	0	40		
	歯科診療所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	3		
	健診等 (乳幼児・住民健診・産業医等)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
	児童福祉施設等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
	県外合計	58	3	1	6	3	18	7	1	5	14	15	31	10	44	10	6	11	3	7	0	1	3	0	3	1	203		
その他	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
	病院	1	1																								1		
	一般診療所	5	0	0	0	1	0	0	1	0	3	1	2	2	1	0	0	3	1	2	0	0	1	0	0	0	18		
	歯科診療所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1		
	老健施設・特養等	7	0	4	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7		
	健診等 (乳幼児・住民健診・産業医等)	11	6	0	1	0	0	2	1	0	1	4	78	14	1	6	2	3	0	1	0	3	0	0	0	0	123		
	その他	5	2	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	12	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	23		
	不明	25	4	1	1	1	7	2	1	2	6	5	21	7	3	1	1	3	0	1	0	1	1	1	10	13	93		
合計	54	13	5	3	2	7	7	3	2	12	10	101	23	5	19	3	15	2	4	0	4	2	1	10	13	266			
合計	病院	1,097	109	89	129	79	143	156	38	125	229	365	269	160	456	92	85	111	26	127	36	31	34	99	62	27	3,077		
	一般診療所	1,415	125	69	154	72	183	182	49	140	441	287	511	150	288	86	221	168	45	82	35	121	29	78	70	34	3,620		
	歯科診療所	14	2	1	0	2	4	1	0	1	3	2	3	0	2	0	0	5	351	0	2	0	0	1	0	4	384		
	老健施設・特養等	200	26	32	25	4	19	41	21	22	10	18	0	23	5	9	1	1	1	5	0	8	0	0	12	6	289		
	市町村・保健所等	10	0	2	0	0	3	1	3	1	0	0	3	4	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	22		
	健診機関	642	93	50	47	37	99	133	34	74	75	290	12	11	75	34	39	14	0	3	0	1	0	0	2	21	1,144		
	健診等 (乳幼児・住民健診・産業医等)	45	14	6	5	2	3	6	2	2	5	8	164	29	4	9	10	9	0	3	1	6	0	0	0	0	288		
	児童福祉施設等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2		
	その他	6	2	0	0	0	1	1	0	0	2	0	1	0	0	12	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	25		
	不明	25	4	1	1	1	7	2	1	2	6	5	21	7	3	1	1	3	0	1	0	1	1	1	10	13	93		
	総計	3,454	375	250	361	197	462	523	148	367	771	975	985																

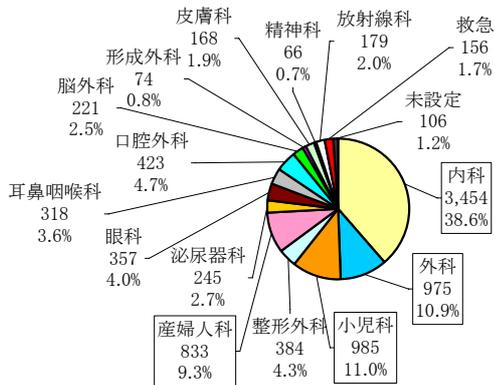
圏域別紹介患者数・割合（県立中部病院）

図1-1 平成16年度中部病院 圏域別紹介患者数・割合 (n=8,944)



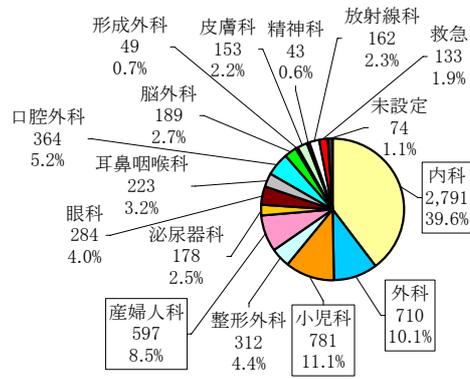
平成16年度における紹介患者は、8,944件(延べ件数)で、圏域別にみると、中部圏域の医療機関からの紹介が約8割(7,043件)を占めていた。

図1-2 平成16年度中部病院 紹介患者の割合 (n=8,944)



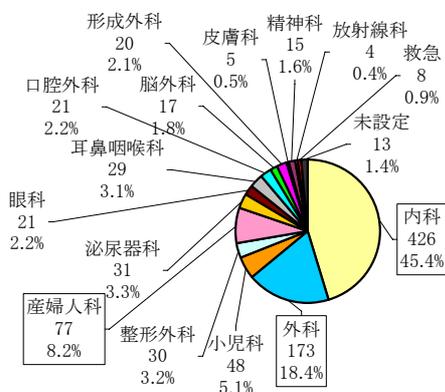
診療科別では、内科への紹介が38.6%(3,454件)と最も高く、次いで小児科11.0%(985件)、外科10.9%(975件)の順となっていた。

図1-3 中部圏域からの紹介(n=7,043)



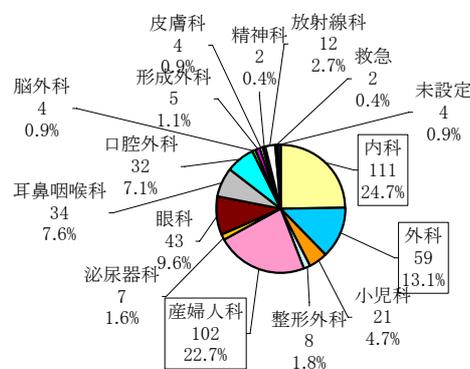
中部圏域では、内科への紹介が39.6%(2,791件)と最も高く、次いで小児科11.1%(781件)、外科10.1%(710件)、産婦人科8.5%(597件)の順となっていた。

図1-4 南部圏域からの紹介(n=938)



南部圏域では、内科への紹介が45.4%(426件)と最も高く、次いで外科(18.4%、173件)、産婦人科(8.2%、77件)、小児科(5.1%、48件)の順となっていた。

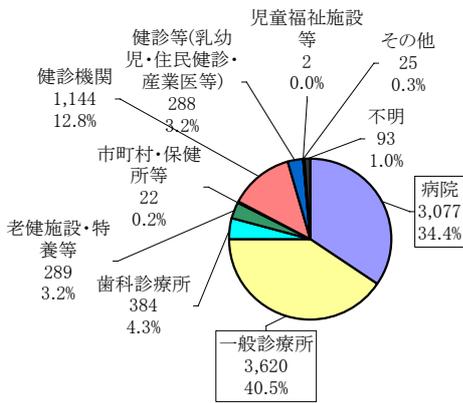
図1-5 北部圏域からの紹介(n=450)



北部圏域では、内科への紹介が24.7%(111件)と最も高く、次いで産婦人科(22.7%、102件)、外科(13.1%、59件)、眼科(13.1%、59件)の順となっていた。

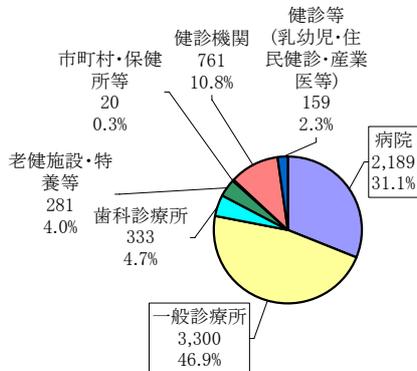
圏域別・施設等紹介患者数・割合

図1-6 平成16年度中部病院紹介患者数・割合



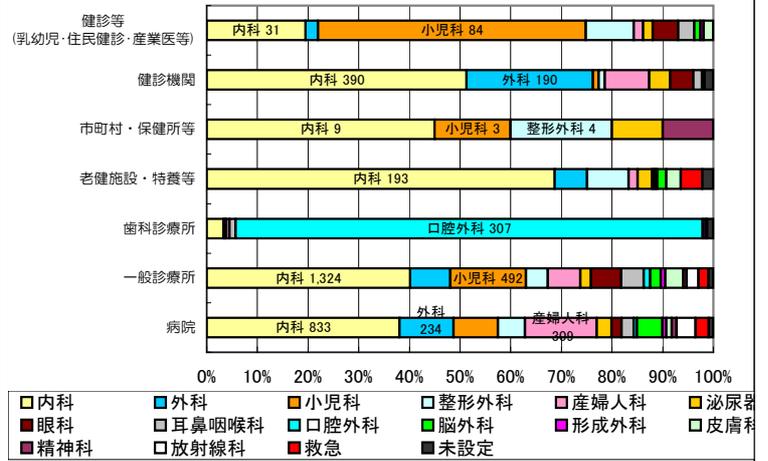
施設区別では、一般診療所からの紹介が約4割、病院からの紹介が約3割を占めていた。

図1-7 中部圏域の医療機関等からの紹介 (n=7,043)



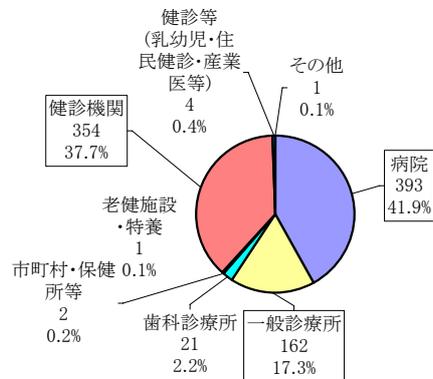
中部圏域からは、診療所からの紹介が約5割、病院からの紹介が約3割となっていた。

図1-8 中部圏域からの紹介



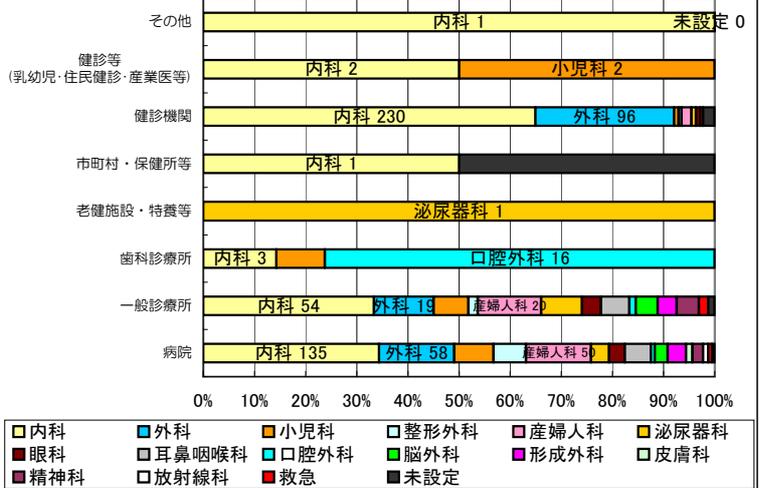
中部圏域医療機関等からの紹介患者では、  
 ○病院からは、内科、産婦人科への紹介が多い。  
 ○一般診療所では、内科、小児科への紹介が多い。  
 ○健診機関からは、内科、外科への紹介が多い。  
 ○歯科診療所からは、口腔外科への紹介が多い。

図1-9 南部圏域からの紹介 (n=938)



南部圏域からは、病院からの紹介が41.9%、健診機関からの紹介が37.7%、一般診療所からの紹介が17.3%となっていた。

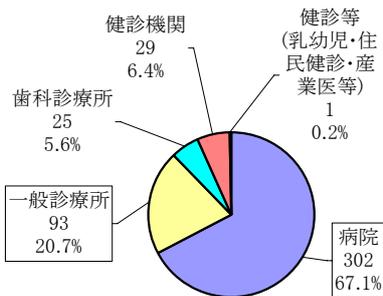
図1-10 南部圏域からの紹介



南部圏域の医療機関等からの紹介患者では、  
 ○病院からは、内科、外科、産婦人科への紹介が多い。  
 ○一般診療所では、内科、産婦人科、外科への紹介が多い。  
 ○健診機関からは、内科、外科への紹介が多い。  
 ○歯科診療所からは、口腔外科への紹介が多い。

図1-11

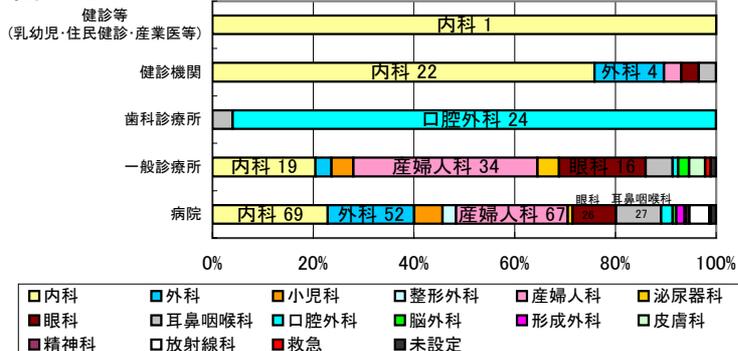
北部圏域からの紹介  
(n=450)



北部圏域からは、病院からの紹介が67.1%、一般診療所からの紹介が20.7%となっていた。

図1-12

北部圏域からの紹介

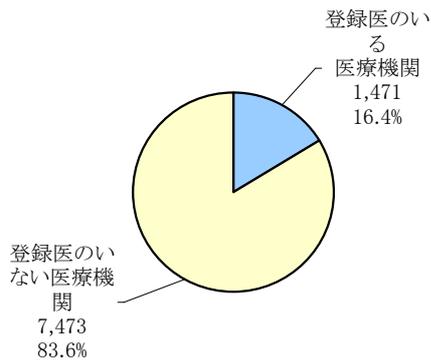


北部圏域の医療機関等からの紹介患者では、  
○病院からは、産婦人科、内科、外科への紹介が多い。  
○一般診療所では、産婦人科への紹介が多い。  
○健診機関からは、内科への紹介が多い。  
○歯科診療所からは、口腔外科への紹介が多い。

表3 平成16年度中部病院 紹介患者(登録医別) (件)

施設等区分	登録医のいる医療機関	登録医のいない医療機関	合計
中部	診療所	1,387	1,913
	病院	21	2,168
	健診機関		761
	歯科診療所	11	322
	老人保健施設・特養等		281
	健診等(乳幼児・住民健診・産業医等)		159
	市町村・保健所		20
	計	1,419	5,624
南部	病院		393
	健診機関		354
	診療所		162
	歯科診療所		21
	健診等(乳幼児・住民健診・産業医等)		4
	市町村・保健所等		2
	老人保健施設・特養等		1
	その他		1
計	0	938	
北部	病院		302
	診療所	52	41
	健診機関		29
	歯科診療所		25
	健診等		1
計	52	398	
宮古	病院		30
	一般診療所		2
	歯科診療所		1
	宮古合計		33
八重山	病院		4
	一般診療所		5
	児童福祉施設等		1
	八重山合計		10
県外	病院		158
	一般診療所		40
	歯科診療所		3
	健診等(乳幼児・住民健診・産業医等)		1
	児童福祉施設等		1
	県外合計		203
その他	その他		1
	病院		1
	一般診療所		18
	歯科診療所		1
	老健施設・特養等		7
	健診等(乳幼児・住民健診・産業医等)		123
	その他		23
	不明		93
	合計		266
	合計	病院	21
一般診療所		1,439	2,181
歯科診療所		11	373
老健施設・特養等		0	289
市町村・保健所等		0	22
健診機関		0	1,144
健診等(乳幼児・住民健診・産業医等)		0	288
児童福祉施設等		0	2
その他		0	25
不明		0	93
総計		1,471	7,473

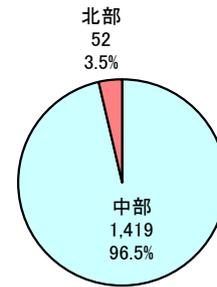
図1-13 平成16年度 中部病院紹介患者 登録医の有無(n=8,944)



登録医のいる医療機関からの紹介

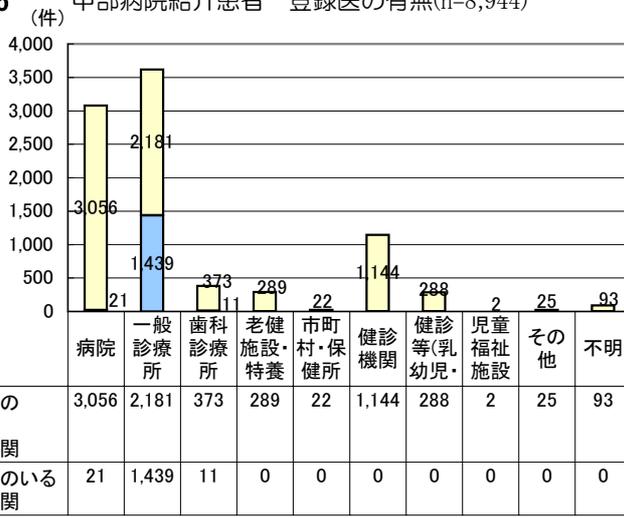
登録医のいる医療機関からの紹介は1,471件(16.4%)であった。

図1-14 登録医のいる医療機関からの紹介(n=1,471)



登録医のいる医療機関からの紹介のうち、96.5%が中部圏域の医療機関からの紹介となっていた。

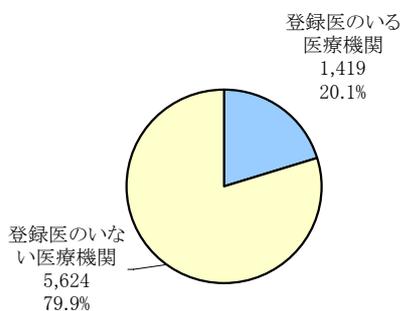
図1-15 中部病院紹介患者 登録医の有無(n=8,944)



中部病院の登録医は、中部圏域、北部圏域の医療機関の医師であった。

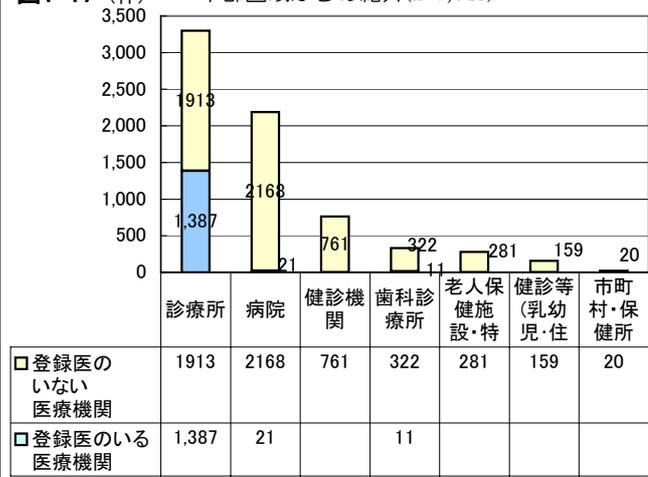
中部病院への紹介患者では、一般診療所においても登録医のいない医療機関からの紹介が多い。

図1-16 中部圏域の医療機関等からの紹介 (n=7,043)



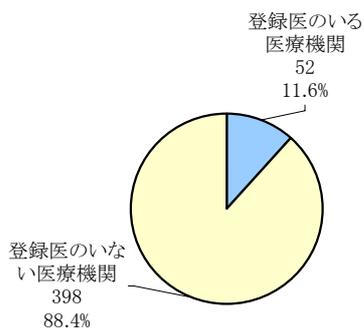
中部圏域からの紹介では、登録医のいる医療機関からの紹介は約2割で、8割は登録医のいない医療機関からの紹介となっていた。

図1-17 (件) 中部圏域からの紹介(n=7,043)



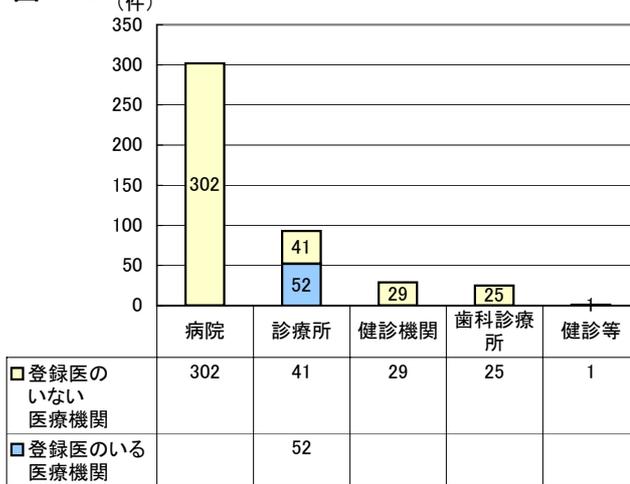
診療所では、登録医のいる医療機関からの紹介は42%(1,387件)となっていた。

図1-18 北部圏域の施設からの紹介 (n=450)



北部圏域からの紹介では、登録医のいない医療機関からの紹介が約9割となっていた。

図1-19 (件) 北部圏域からの紹介(n=450)



北部圏域の診療所からは、登録医からの紹介が多い。(56%,52件)

表4 県立中部病院 登録医・登録施設数

	診療種別	登録医 (人)	施設数 (件)
中部圏域	病院	1	1
	一般診療所	49	43
	歯科診療所	2	2
	計	52	46
圏北部	一般診療所	8	8
合計	一般診療所	57	51
	歯科診療所	2	2
	病院	1	1
	計	60	54

図1-20 圏域別登録医数(n=60)

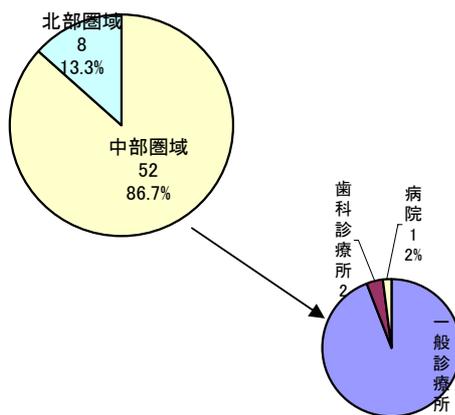
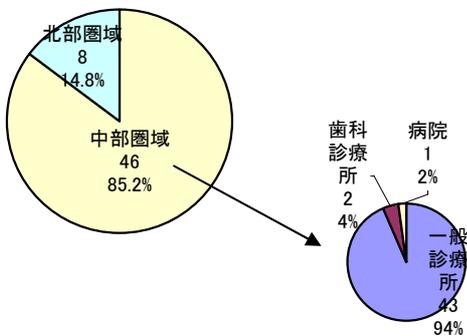


図1-21 圏域別施設数(n=54)



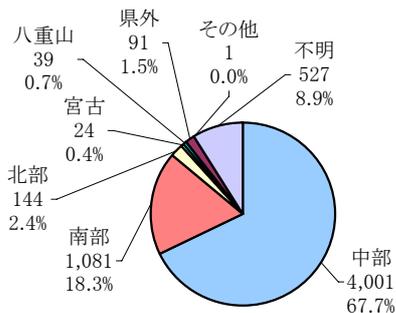
イ 県立中部病院逆紹介患者の状況（平成16年度）

表5 平成16年度中部病院逆紹介患者数（圏域別・診療科別・施設別）

(件)

圏域	施設区分	診療科別																	合計									
		内科	一般内科	総合内科	神経内科	血液内科	腎臓内科	呼吸器内科	感染症内科	消化器内科	循環器内科	外科	小児科	整形外科	産婦人科	泌尿器科	眼科	耳鼻咽喉科		口腔外科	脳外科	形成外科	皮膚科	精神科	放射線科	麻酔科	救急	未設定
中部	病院	706	21	68	163	31	102	85	59	60	117	88	97	207	58	33	29	19	2	102	7	8	113		1	165	21	1,656
	一般診療所	1,401	41	82	127	28	149	129	74	91	680	42	59	90	47	13	120	14	5	40	5	11	134	1		86	22	2,090
	歯科診療所	25		1	1	1	4	4		1	13	1	3					2	7		2		1				2	43
	保健所等	1							1				1															2
	老人保健施設・特養等	146	2	15	27	6	10	29	32	15	10	16		19	1	2		2		1		1	1			16	3	208
	訪問看護	1	1																									1
	その他	1									1																	1
中部 合計	2,281	65	166	318	66	265	248	165	167	821	147	160	316	106	48	149	37	14	143	14	20	249	1	1	267	48	4,001	
南部	病院	334	15	21	126	15	32	21	6	57	41	54	73	105	91	9	26	95	3	55	21	11	10			29	12	928
	一般診療所	78	5	2	4	3	13	28	3	5	15	12	8	9	7	2	3	7		1	1	1	8			6	3	146
	歯科診療所	2					2												1									3
	老人保健施設・特養等	0																1										1
	その他	1								1								2										3
南部 合計	415	20	23	130	20	45	49	10	62	56	66	81	114	98	11	30	104	4	56	22	12	18	0	0	35	15	1,081	
北部	病院	39		4	1	8	2	1	2	5	16	8	11	2	8	2	17	6	2	1	3		5			2	2	108
	一般診療所	8					2	1	1			4	3	2	1	2	1	10			1	1	2	1			1	33
	歯科診療所	1										1								2								3
	北部 合計	48	0	4	1	8	4	2	3	5	21	11	13	3	10	3	27	6	4	2	4	2	6	0	0	3	2	144
宮古	病院	7				1	1			1	4	8			2		2									1	1	21
	一般診療所	2								1	1				1													3
	宮古 合計	9	0	0	0	1	1	0	0	2	5	8	0	0	2	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	1	24
八重山	病院	12	1				2			1	8	2	4	2	6		1				2	4						33
	一般診療所	3					1	1			1						1				1						1	6
	八重山 合計	15	1	0	0	0	3	1	0	1	9	2	4	2	6	1	1	0	0	1	0	2	4	0	0	1	0	39
県外	病院	20	1	2	6	2	1	1	1	3	3	7	15	5	7	3	3	4		4	2	1	2			5	1	79
	一般診療所	2						1			1	1	1		1	1							2				1	9
	歯科診療所	0																1										1
	老人保健施設・特養等	1						1																				1
	その他	0																1										1
県外 合計	23	1	2	6	2	1	3	1	3	4	8	16	5	8	4	4	5		4	2	1	4			5	2	91	
その他	一般診療所	1					1																					1
不明	病院	0														1											1	2
	一般診療所	4			1					2	1	2	3	2	1		2	2								2		18
	歯科診療所	0										1																1
	その他	1									1																	1
	不明 合計	177	15	21	33	9	27	21	11	15	29	64	43	62	37	8	6	15	2	10	2		8			67	18	505
合計	病院	1,118	38	95	296	57	140	108	68	127	189	167	200	321	172	48	76	126	7	162	33	22	134	0	1	203	37	2,827
	一般診療所	1,499	46	84	132	31	166	160	78	99	703	60	73	102	58	19	135	23	5	43	7	14	145	1	0	96	26	2,306
	歯科診療所	28	0	1	1	3	4	4	0	1	14	2	3	0	0	0	0	3	10	0	2	0	1	0	0	0	2	51
	保健所等	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	老人保健施設・特養等	147	2	15	27	6	10	30	32	15	10	16	0	19	1	2	1	2	0	1	0	1	1	0	0	16	3	210
	訪問看護	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	その他	3	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
	不明	177	15	21	33	9	27	21	11	13	27	61	40	60	36	7	4	13	2	10	2		8			67	18	505
総計	2,974	102	216	489	106	347	324	190	255	945	306	317	502	267	76	217	169	24	216	44	37	289	1	1	382	86	5,908	

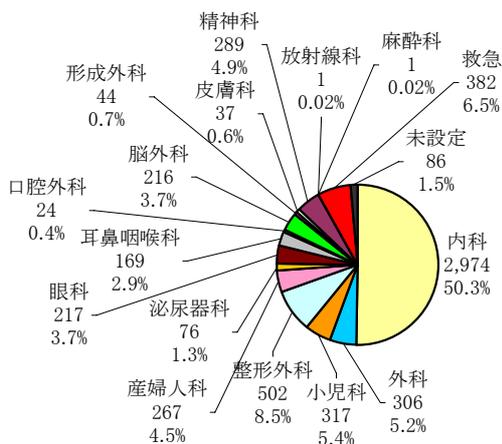
図2-1 平成16年度 中部病院逆紹介患者数・割合 (n=5,908)



中部病院からの逆紹介患者では、中部圏域への逆紹介が67.7%（4,001件）、南部圏域への逆紹介が18.3%（1,081件）となっていた。

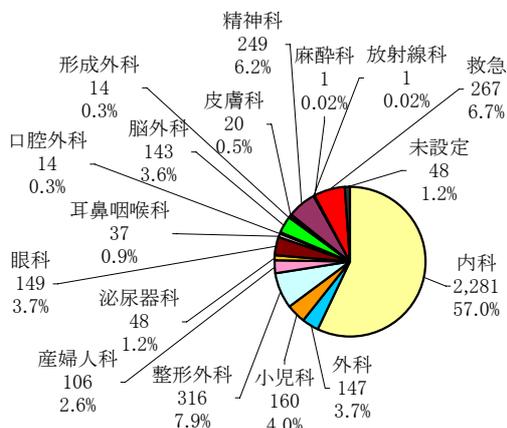
診療科別逆紹介患者（中部病院）

図2-2 平成16年度中部病院逆紹介患者(n=5,908)



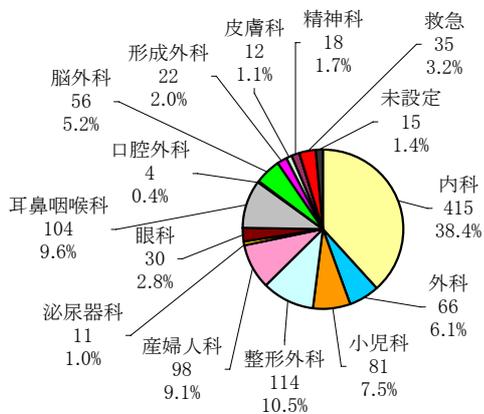
診療科別では、内科からの逆紹介が5割を占めていた。

図2-3 中部圏域の医療機関へ逆紹介(n=4,001)



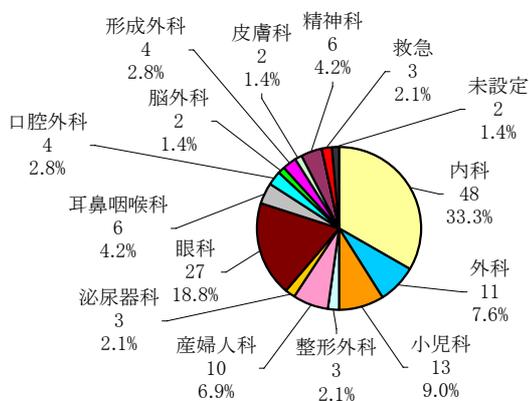
中部圏域では、診療科別では、内科からの逆紹介が約6割を占めていた。

図2-4 南部圏域の医療機関等に逆紹介(n=1,081)



南部圏域では、内科からの逆紹介が最も多く(415件、38.4%)、次いで整形外科(114件、10.5%)、耳鼻咽喉科(104件、9.6%)の順となっていた。

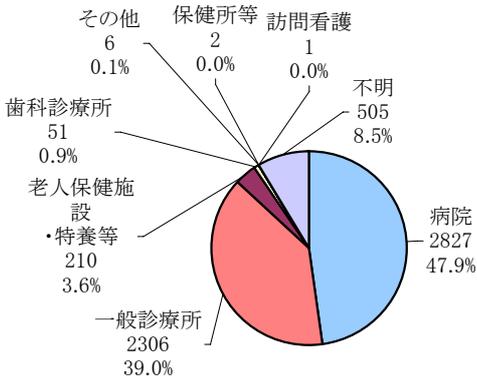
図2-5 北部圏域の医療機関等に逆紹介(n=144)



北部圏域では、内科からの逆紹介が最も多く(48件、33.3%)、次いで眼科(27件、18.8%)の順となっていた。

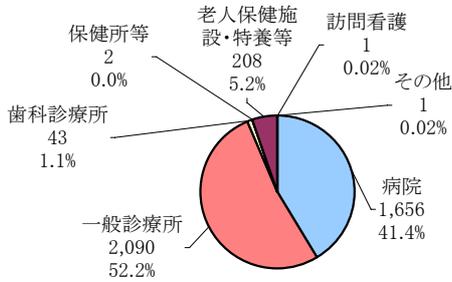
中部病院・施設別逆紹介患者

図2-6 中部病院逆紹介・施設別 (n=5,908)



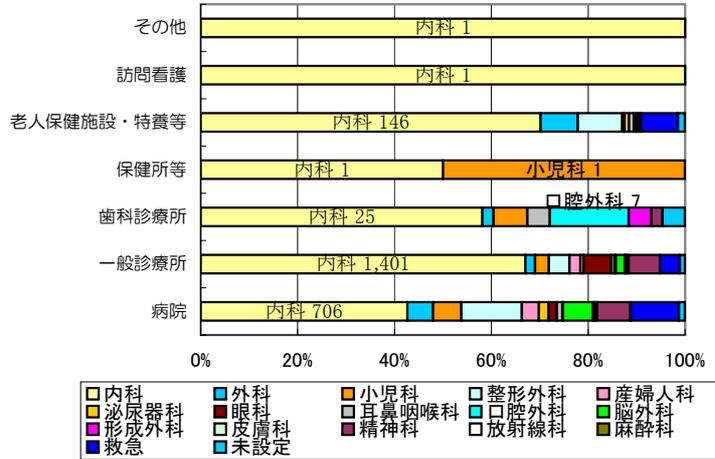
施設別では、病院への逆紹介が47.9%(2,827件)、一般診療所39.0%(2,306件)となっていた。

図2-7 中部圏域への逆紹介患者 (n=4,001)



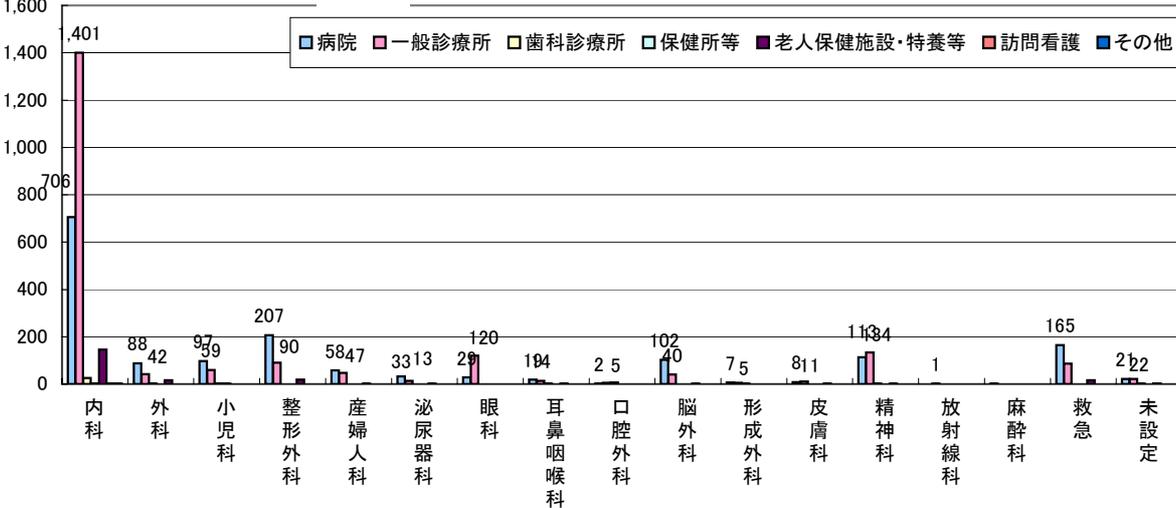
中部圏域へは、一般診療所への逆紹介が52.2%(2,090件)、病院への紹介が41.1%(1,656件)となっていた。

図2-8 中部圏域へ逆紹介



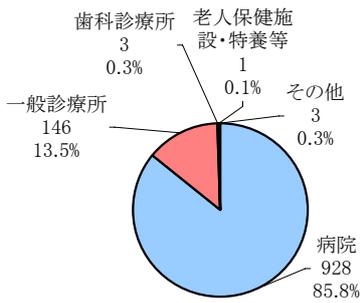
中部圏域へは、内科からの逆紹介が多い。

図2-9 中部圏域へ逆紹介



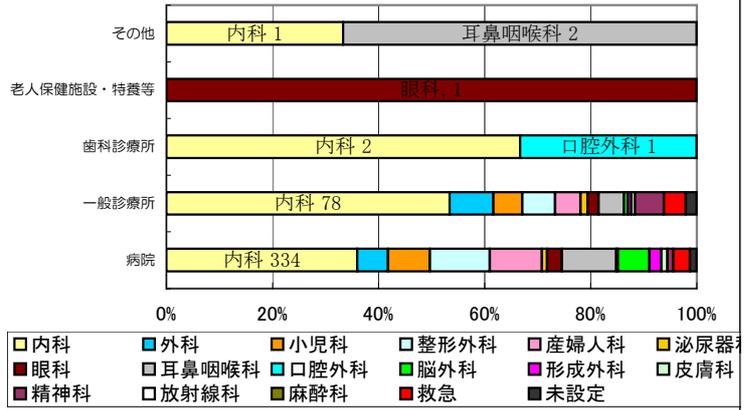
内科、精神科では、一般診療所への逆紹介が多い。それ以外の診療科では、病院への逆紹介が多い。

図2-10 南部圏域へ逆紹介 (n=1,081)



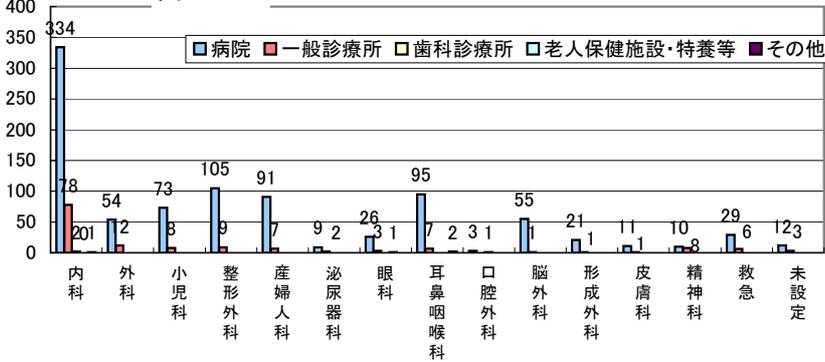
南部圏域へは、病院への逆紹介が85.8(928件)を占めていた。

図2-11 南部圏域へ逆紹介



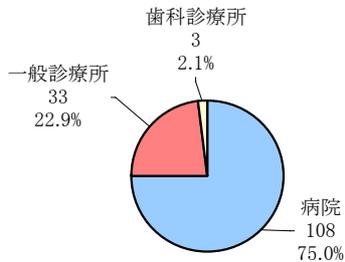
南部圏域においても、内科への逆紹介が多い。

図2-12 南部圏域へ逆紹介 (件)



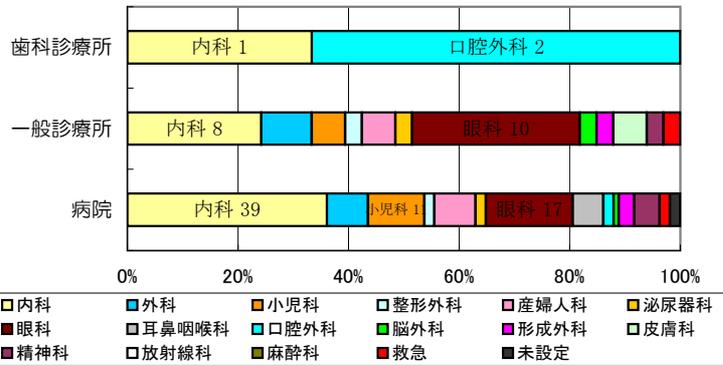
南部圏域への逆紹介では、全ての診療科において病院への逆紹介が多い。

図2-13 北部圏域の医療機関に逆紹介(n=144) (中部病院)



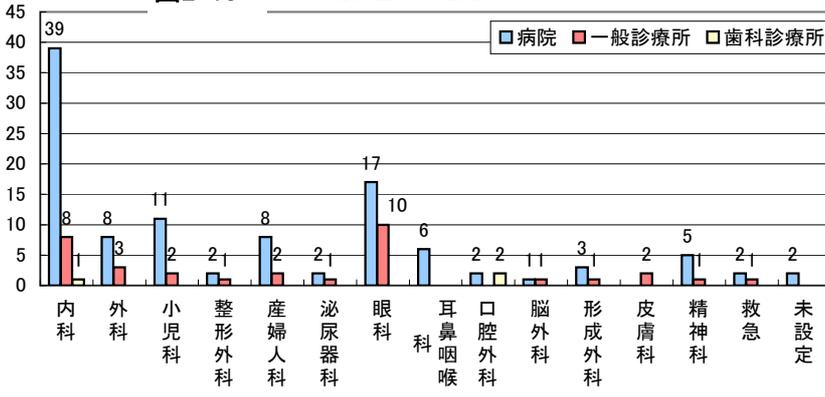
北部圏域へは、病院への紹介が75%(108件)となっていた。

図2-14 北部圏域



北部圏域においては、内科、眼科からの逆紹介が多い。

図2-15 北部圏域へ逆紹介 (件)



どの診療科でも病院への逆紹介が多い。

(2) 平成16年度中頭病院における紹介患者・逆紹介患者の状況

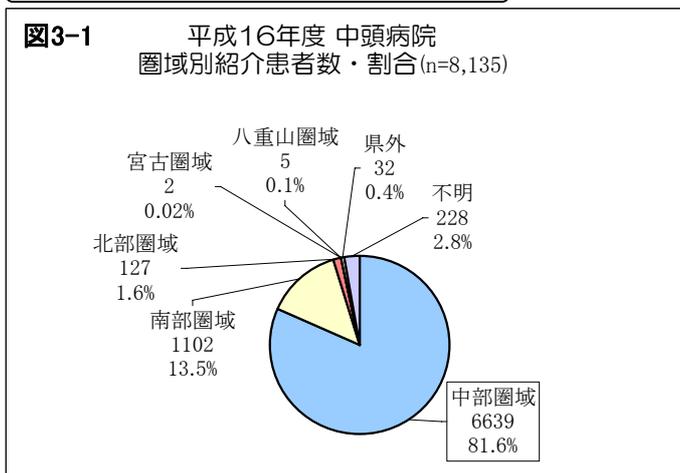
ア 中頭病院紹介患者の状況（平成16年度）

表6 平成16年度中頭病院 紹介患者数（圏域別・施設区分別・診療科別）

(件)

圏域	施設区分	診療科別													透析室	不明	総計		
		内科	外科	小児科	整形外科	産婦人科	泌尿器科	眼科	耳鼻咽喉科	脳神経外科	放射線科	形成外科	救急	救急内科				救急外科	救急小児科
中部	病院	435	62	47	27	20	119	27	46	3	99	2	16	13	3		1		904
	診療所	1,527	383	783	109	29	183	71	173	13	787	10	33	26	5	2		3	4,104
	歯科診療所	12	5				1		2		21		1		1				42
	県・保健所	6											0						6
	老健施設・特養	213	25	1	12	1	17	3	1	2	1	1	22	20	2			1	300
	健診機関	1,104	16	26	13	17	55	38	12		1		0					1	1,283
	中部合計	3,297	491	857	161	67	375	139	234	18	909	13	72	59	11	2	1	5	6,639
南部	病院	62	13	14	5	11	15	1	4	2	13	1	1		1				142
	診療所	27	3	8	5	8	14	2	5		3		1		1				76
	県・保健所	2											0						2
	健診機関	846	8	11		3	9	2	2				0					1	882
		南部合計	937	24	33	10	22	38	5	11	2	16	1	2	0	2	0	0	1
北部	病院	18	7	2	3	2	8	1	2		3		0						46
	診療所	12	11	5	3	3	19	2	1		2		0						58
	健診機関	21	1				1						0						23
		北部合計	51	19	7	6	5	28	3	3	0	5	0	0	0	0	0	0	0
宮古	病院			1									0						1
	診療所	1											0						1
		宮古合計	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
八重山	病院	1		1									0						2
	診療所				1	1	1						0						3
		八重山合計	1	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県外	病院	12		2	1	5	1	1	1				0						23
	診療所	2	1			5							0						8
	不明	1											0						1
		県外合計	15	1	2	1	10	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	病院										1		0						1
	診療所		1										0						1
	歯科診療所								1				0						1
	健診(乳幼児・学校・産業医等)	56		132	9	1	1	1			1		0						201
	不明	11	4		1	4	3				1		0						24
		不明合計	67	5	132	10	5	4	1	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0
合計	病院	528	82	67	36	38	143	30	53	5	115	4	17	13	4	0	1	0	1,119
	診療所	1,569	399	796	118	46	217	75	179	13	792	10	34	26	6	2	0	3	4,251
	歯科診療所	12	5	0	0	0	1	0	3	0	21	0	1	0	1	0	0	0	43
	県・保健所	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
	老健施設・特養	213	25	1	12	1	17	3	1	2	1	1	22	20	2	0	0	1	300
	健診機関	1,971	25	37	13	20	65	40	14	0	1	0	0	0	0	0	0	2	2,188
	健診(乳幼児・学校・産業医等)	56	0	132	9	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	201
	不明	12	4	0	1	4	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	25
	合計	4,369	540	1,033	189	110	447	149	250	20	931	16	74	59	13	2	1	6	8,135

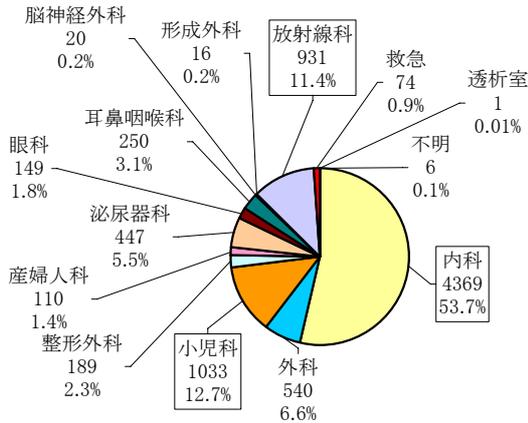
圏域別紹介患者数・割合（中頭病院）



平成16年度における中頭病院への紹介患者は8,135件となっており、圏域別にみると、中部圏域の医療機関からの紹介が約8割(6,639件)を占めていた。

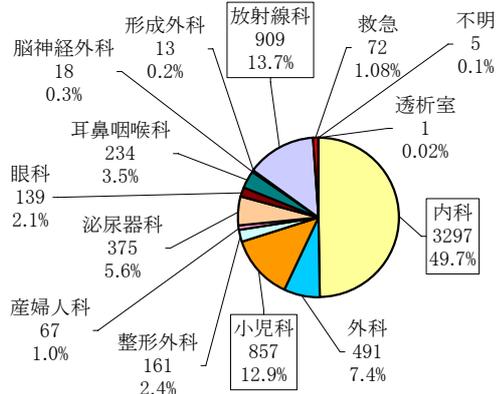
診療科別紹介患者数・割合（中頭病院）

図3-2 平成16年度中頭病院 診療科別紹介患者数・割合 (n=8,135)



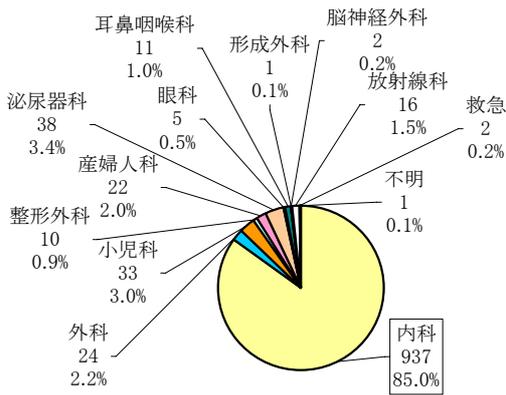
診療科別では、内科が4,369件(53.7%)と最も多く、次いで小児科1,033件(12.7%)、放射線科931件(11.4%)の順となっていた。

図3-3 中部圏域の医療機関からの紹介 診療科別紹介患者数・割合(n=6,639)



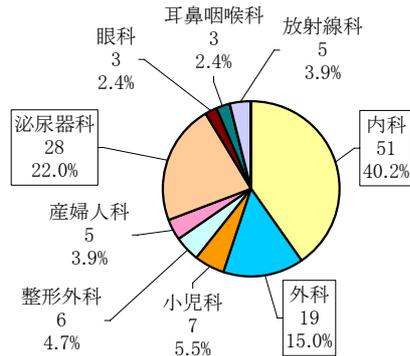
中部圏域の医療機関からの紹介は、内科が約5割を占め、次いで放射線科(13.8%)、小児科(13.1%)となっていた。

図3-4 南部圏域の医療機関からの紹介 診療科別紹介患者数・割合(n=1,102)



南部圏域の医療機関からの紹介では、内科が約8割を占めていた。

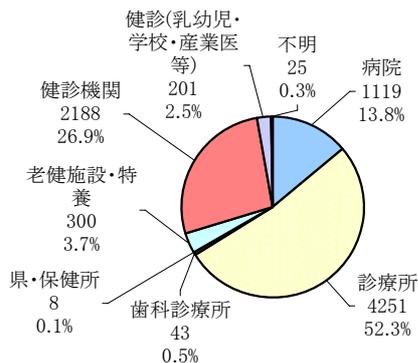
図3-5 北部圏域の医療機関からの紹介 診療科別紹介患者数・割合(n=127)



北部圏域の医療機関からの紹介では、内科が約4割を占め、次いで泌尿器科(22%)、外科(15%)となっていた。

圏域別・施設別紹介患者数・割合（中頭病院）

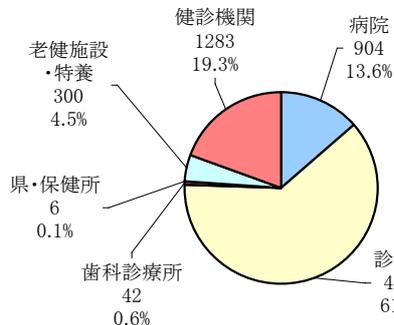
図3-6 平成16年度 中頭病院 施設等区分別紹介患者数・割合(n=8,135)



施設区分別の紹介患者では、診療所からの紹介が約5割を占めていた。

圏域別・施設等区別紹介患者数・割合

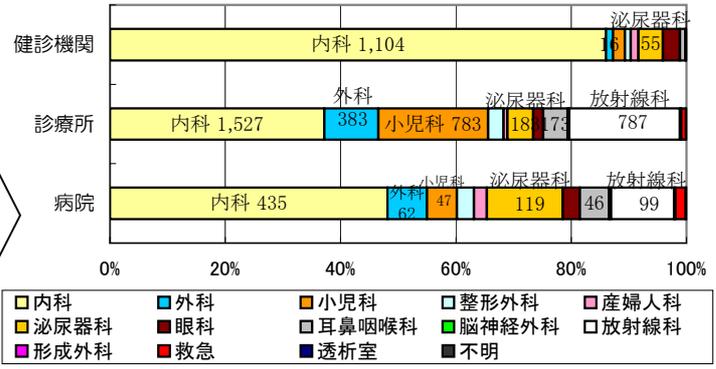
図3-7 中部圏域の医療機関からの紹介施設等区別紹介患者数・割合 (n=6,639)



診療科別  
(病院・診療所・健診機関)

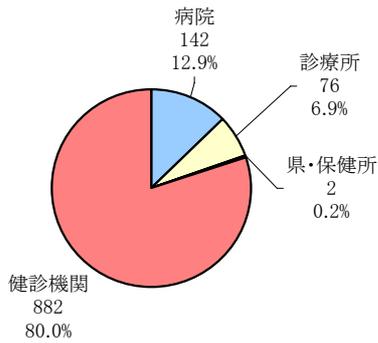
中部圏域の医療機関からの紹介では、診療所からの紹介が約6割を占めていた。

図3-8 中部圏域の医療機関(病院・診療所・健診機関)からの紹介・診療科別



○病院からの紹介では、内科435件(48.1%)、泌尿器科119件(13.2%)、放射線科99件(11.0%)の順となっていた。  
○診療所からの紹介では、内科1,527件(37.2%)、放射線科787件(19.2%)、小児科783件(19.1%)の順となっていた。  
○健診機関では、内科への紹介(1,104件、86.0%)が多い。

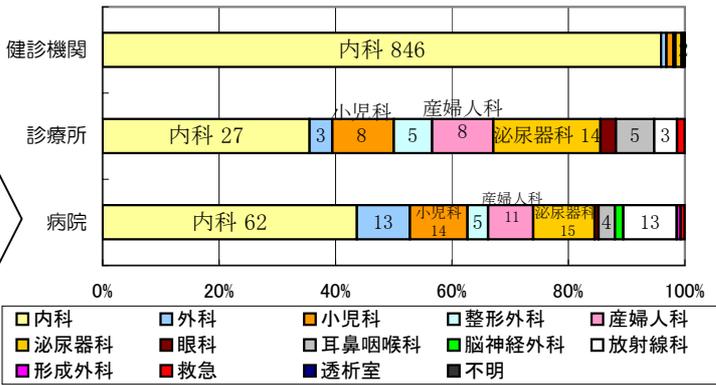
図3-9 南部圏域の医療機関からの紹介施設等区別紹介患者数・割合(n=1,102)



診療科別  
(病院・診療所・健診機関)

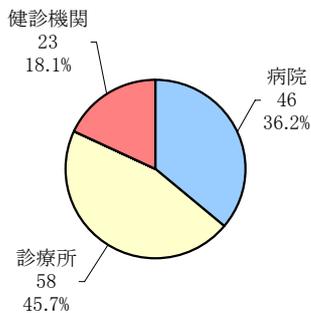
南部圏域の医療機関からの紹介では、健診機関からの紹介が約8割を占めていた。

図3-10 南部圏域の医療機関(病院・診療所・健診機関)からの紹介・診療科別



○病院からは、内科(62件、43.7%)への紹介が多い。  
○診療所からの紹介では、内科(27件、35.5%)、泌尿器科(14件、18.4%)からの紹介が多い。(小児科・産婦人科は各々8件(10.5%))  
○健診機関では、内科への紹介(846件、95.9%)が多い。

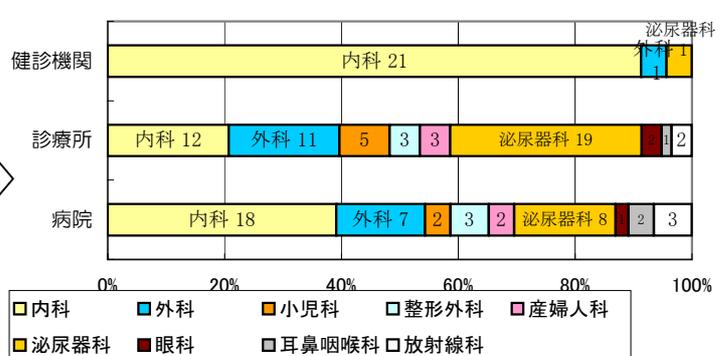
図3-11 北部圏域の医療機関からの紹介施設等区別紹介患者数・割合(n=127)



診療科別

北部圏域の医療機関からの紹介では、診療所からの紹介が約5割を占めていた。また、他の圏域に比べ病院からの紹介が高くなっていた。

図3-12 北部圏域・施設区別診療科別紹介患者の割合

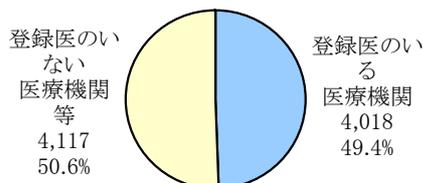


○病院からの紹介では、内科18件(39.1%)、泌尿器科8件(17.4%)、外科7件(15.2%)の順となっていた。  
○診療所からの紹介では、泌尿器科19件(32.8%)、内科12件(20.7%)、外科11件(19.0%)の順となっていた。  
○健診機関では、内科への紹介(21件、91.3%)が多い。

表7 平成16年度中頭病院 登録医別紹介患者数（施設別） (件)

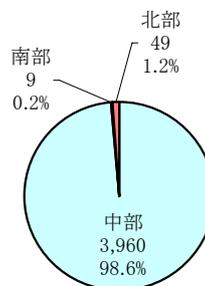
圏域	施設区分	登録医のいる 医療機関	登録医のいない 医療機関等	合計
中部	病院	0	904	904
	診療所	3,920	184	4,104
	歯科診療所	40	2	42
	県・保健所	0	6	6
	老健施設・特養等	0	300	300
	健診機関	0	1,283	1,283
	中部 合計	3,960	2,679	6,639
南部	病院	0	142	142
	診療所	9	67	76
	県・保健所	0	2	2
	健診機関	0	882	882
	南部 合計	9	1,093	1,102
北部	病院	0	46	46
	診療所	49	9	58
	健診機関	0	23	23
	北部 合計	49	78	127
宮古	病院	0	1	1
	診療所	0	1	1
	宮古 合計	0	2	2
八重山	病院	0	2	2
	診療所	0	3	3
	八重山 合計	0	5	5
県外	病院	0	23	23
	診療所	0	8	8
	不明	0	1	1
	県外 合計	0	32	32
不明	病院	0	1	1
	診療所	0	1	1
	歯科診療所	0	1	1
	健診(乳幼児・学校・産業医等)	0	201	201
	不明	0	24	24
	不明 合計	0	228	228
合計	病院	0	1,119	1,119
	診療所	3,978	273	4,251
	歯科診療所	40	3	43
	県・保健所	0	8	8
	老健施設・特養等	0	300	300
	健診機関	0	2,188	2,188
	健診(乳幼児・学校・産業医等)	0	201	201
	不明	0	25	25
	合計	4,018	4,117	8,135

図3-13 平成16年度 中頭病院紹介患者  
登録医の有無(n=8,135)



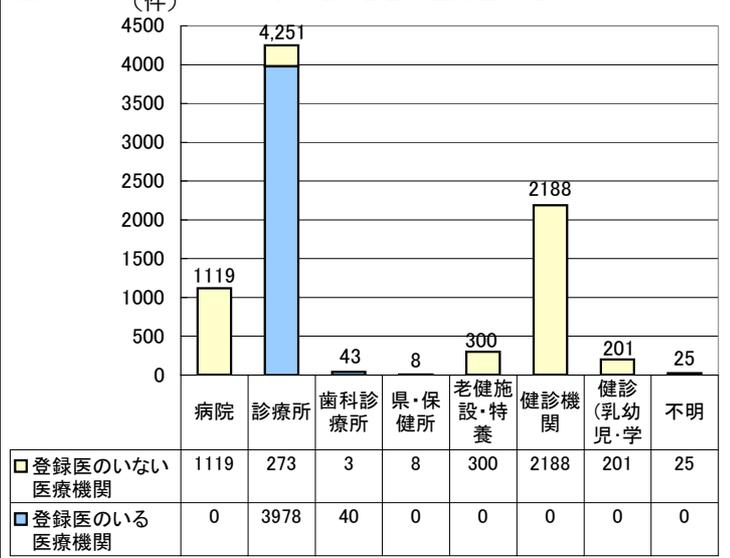
登録医のいる医療機関からの紹介は  
4,018件(49.4%)となっていた。

図3-14 登録医のいる医療機関  
(n=4,018)



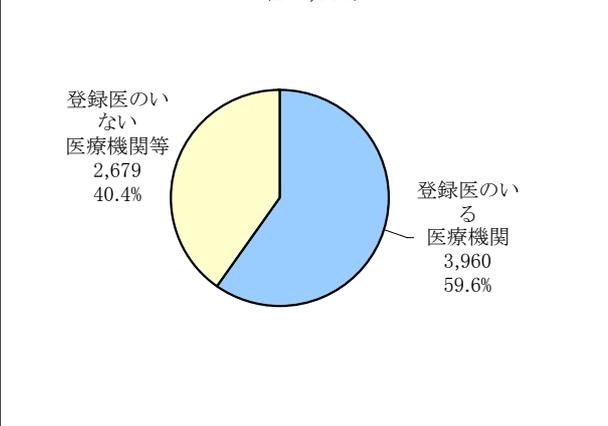
登録医のいる医療機関からの紹介のうち、  
中部圏域の医療機関からの紹介は  
3,974件(98.6%)となっていた。

図3-15 中頭病院紹介患者・登録医の有無(n=8,135)



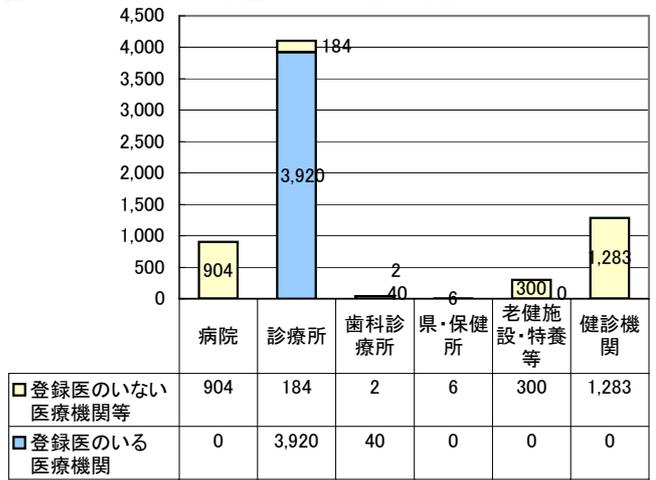
中頭病院の登録医になっているのは、一般診療所・歯科診療所のみであった。一般診療所・歯科診療所からは、登録医からの紹介が多くなっていた。

図3-16 平成16年度中頭病院紹介患者 中部圏域の医療機関からの紹介 (n=6,639)



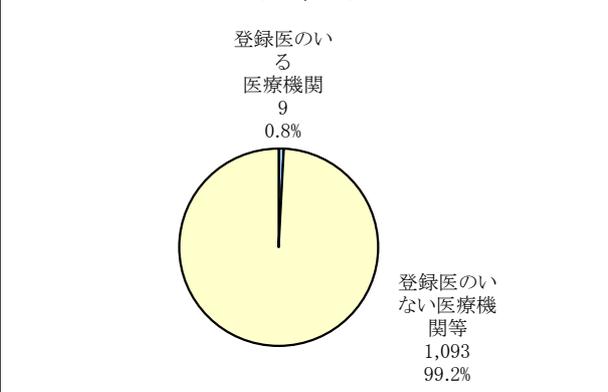
中部圏域の医療機関からの紹介では、約6割が登録医からの紹介となっていた。

図3-17 (件) 中部圏域からの紹介・施設別(n=6,639)



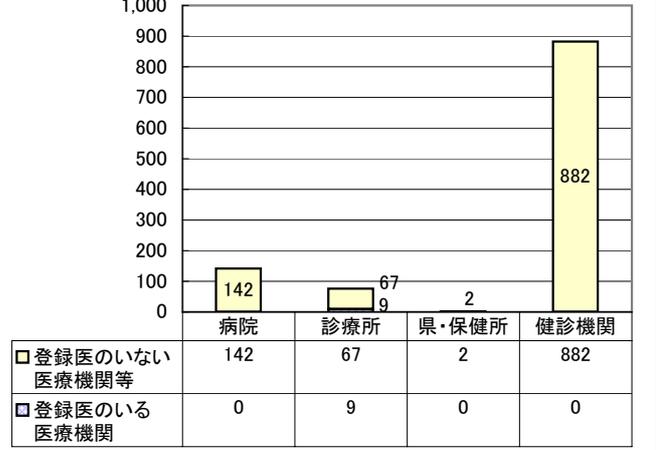
中部圏域の一般診療所・歯科診療所からは、中頭病院登録医からの紹介が多い。

図3-18 平成16年度中頭病院紹介患者 南部圏域の医療機関からの紹介 (n=1,102)



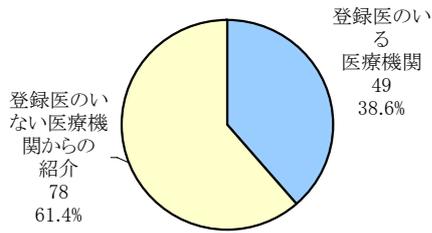
南部圏域の医療機関からの紹介では、約9割が登録医師が一人もない医療機関からの紹介となっていた。

図3-19 (件) 南部圏域からの紹介・施設別(n=1,102)



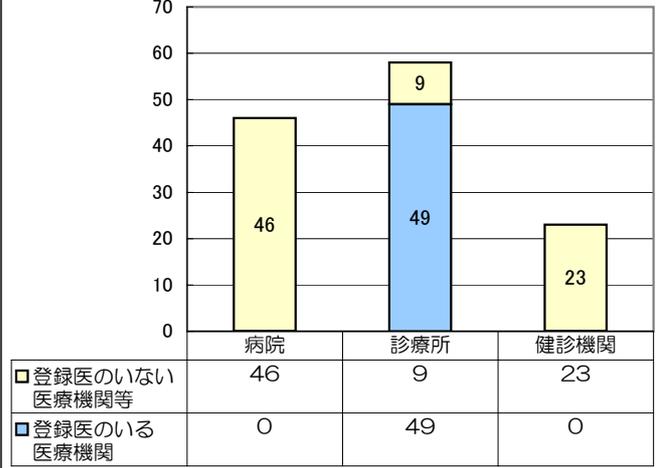
南部圏域の一般診療所からは、中頭病院の登録医になっていない診療所からの紹介が多い。

図3-20 平成16年度中頭病院紹介患者  
北部圏域の医療機関からの紹介  
(n=127)



北部圏域の医療機関からの紹介では、約6割が登録医が一人もない医療機関からの紹介となっていた。

図3-21 (件) 北部圏域から紹介・施設別(n=127)



北部圏域の一般診療所からは、中頭病院登録医からの紹介が多い。

表8 中頭病院 登録医・登録施設数

	診療種別	登録医(人)	施設数(件)
中部圏域	一般診療所	152	138
	歯科診療所	5	4
	計	157	142
南部圏域	一般診療所	28	27
	歯科診療所	0	0
	計	28	27
北部圏域	一般診療所	21	21
	歯科診療所	0	0
	計	21	21
合計	一般診療所	201	186
	歯科診療所	5	4
	計	206	190

資料：中頭病院地域医療連携室

図3-22 圏域別登録医数・割合(n=206)

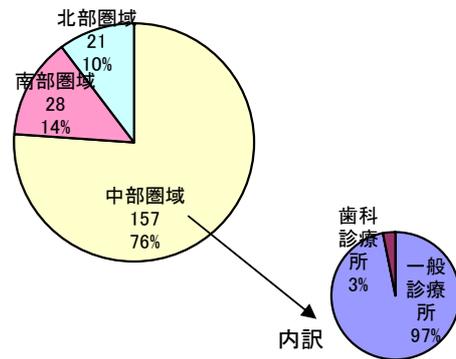
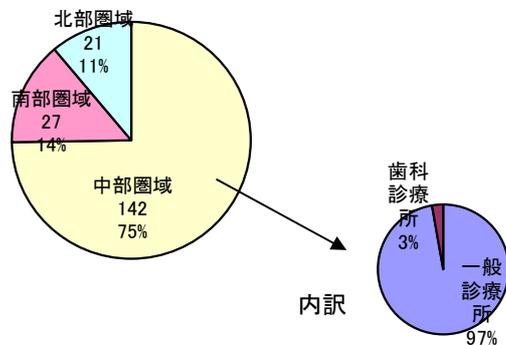


図3-23 圏域別施設数・割合(n=190)

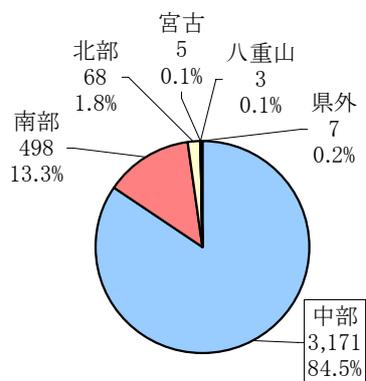


イ 中頭病院逆紹介患者の状況（平成16年度）

表9 平成16年度中頭病院逆紹介患者数（圏域別・診療科別・施設別） (件)

圏域	施設別	内科	外科	小児科	整形外科	産婦人科	泌尿器科	眼科	耳鼻咽喉科	脳神経外科	形成外科	皮膚科	放射線科	救急	救急内科	救急外科	救急整形外科	透析室	合計
中部	病院	676	103	89	80	89	63	27	18	4	1	9	92	41	23	18		17	1,309
	診療所	464	45	86	25	9	32	21	8	1	2	10	765	25	15	10		10	1,503
	歯科診療所	112	7	1	4		1		2		1		16	2	1	1		8	154
	保健所	1												0					1
	老健施設・特養等	174	9		6		1	2	1			1	1	1			1	1	197
	訪問看護	4	1		2									0					7
	中部 合計	1,431	165	176	117	98	97	50	29	5	4	20	874	69	39	29	1	36	3,171
南部	病院	110	31	21	37	40	19	40	24	29	1	47	11	17	8	8	1	1	428
	診療所	18	21	6	7	3	5	1					3	3	1	2		1	68
	歯科診療所	1												0					1
	その他								1					0					1
		南部 合計	129	52	27	44	43	24	41	25	29	1	47	14	20	9	10	1	2
北部	病院	18	3	1		3	3	1	3				3	2	1	1		1	38
	診療所	6	1	4	1	4	9	2					2	0					29
	歯科診療所	1												0					1
		北部 合計	25	4	5	1	7	12	3	3	0	0	0	5	2	1	1	0	1
宮古	病院	2				2			1				0						5
八重山	病院	1											0						1
	診療所		1	1									0						2
		八重山 合計	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
県外	病院	5	1										1		1				7
合計	病院	812	138	111	117	134	85	68	46	33	2	56	106	61	32	28	1	19	1,788
	診療所	488	68	97	33	16	46	24	8	1	2	10	770	28	16	12	0	11	1,602
	歯科診療所	114	7	1	4	0	1	0	2	0	1	0	16	2	1	1	0	8	156
	保健所	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	老健施設・特養等	174	9	0	6	0	1	2	1	0	0	1	1	1	0	0	1	1	197
	訪問看護	4	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
	その他	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		合計	1,593	223	209	162	150	133	94	58	34	5	67	893	92	49	41	2	39

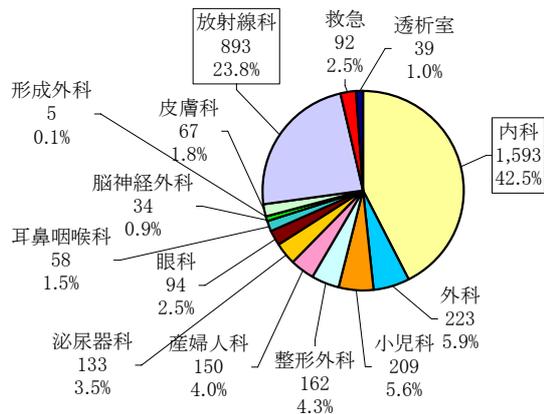
図4-1 平成16年度中頭病院 圏域別逆紹介患者数・割合(n=3,752)



平成16年度の中頭病院における逆紹介患者は、中部圏域の医療機関等への逆紹介が約8割(3,171件)を占めていた。

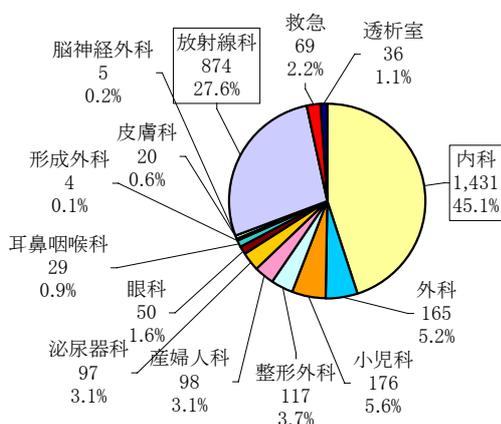
診療科別逆紹介患者数・割合（中頭病院）

図4-2 平成16年度中頭病院逆紹介患者診療科別紹介患者数・割合(n=3,752)



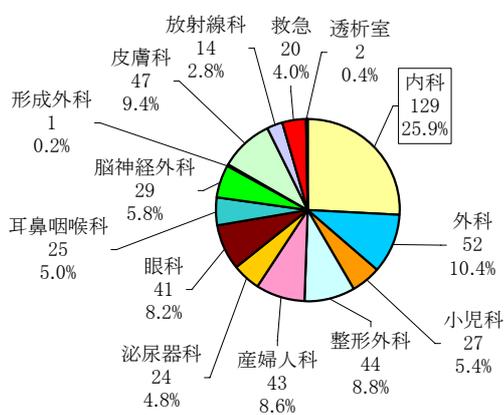
診療科別では、内科からの紹介が約4割(1,593件)を占め、次いで放射線科(23.8%、893件)の順となっていた。

図4-3 中部圏域の医療機関に紹介(n=3,171)



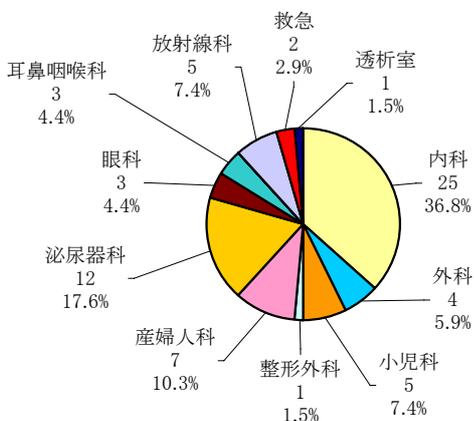
中部圏域の医療機関への逆紹介患者は、内科からの紹介が45.1%(1,431件)と最も多く、次いで放射線科 27.6%(874件)の順となっていた。

図4-4 南部圏域の医療機関に紹介(n=498)



南部圏域の医療機関への逆紹介患者は、内科からの紹介が25.9%(129件)と最も多く、次いで外科 10.4%(52件)の順となっていた。

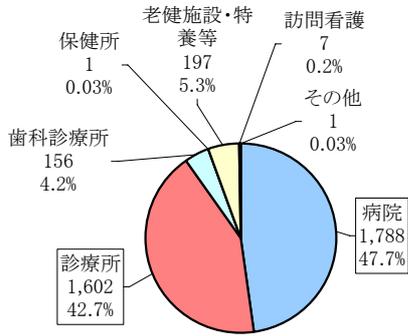
図4-5 北部圏域の医療機関に紹介(n=68)



北部圏域の医療機関への逆紹介患者は、内科からの紹介が25件(36.8%)、泌尿器科からの紹介が12件(17.6%)となっていた。

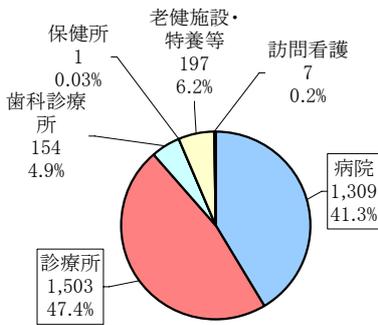
施設等区別紹介患者数・割合

図4-6 平成16年度 中頭病院  
施設等区別逆紹介患者数・割合  
(n=3,752)



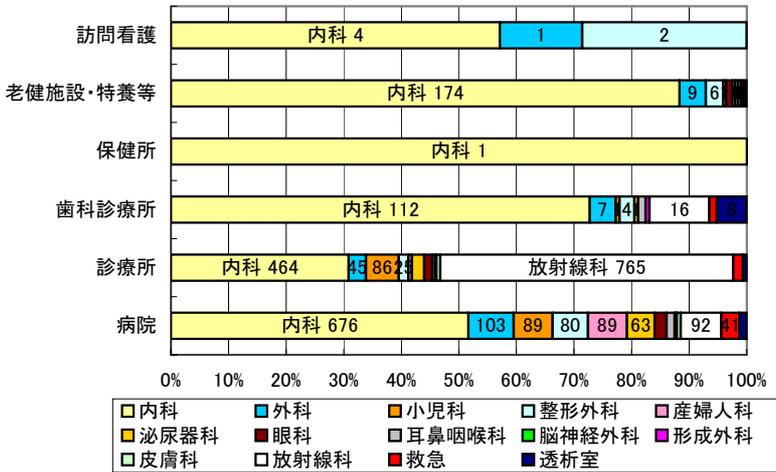
施設区別の逆紹介患者では、病院への紹介が1,788件(47.7%)と最も多く、次いで診療所への紹介が1,602件(42.7%)となっていた。

図4-7 中部圏域の医療機関等へ逆紹介  
(n=3,171)



中部圏域の医療機関等への逆紹介患者では、診療所への紹介が1,503件(47.4%)と最も多く、次いで病院への紹介が1,309件(41.3%)となっていた。

図4-8 中部圏域の医療機関等へ逆紹介



診療所へは放射線科からの逆紹介が多い。それ以外の施設へは、内科からの逆紹介が多い。

図4-9 中部圏域へ逆紹介

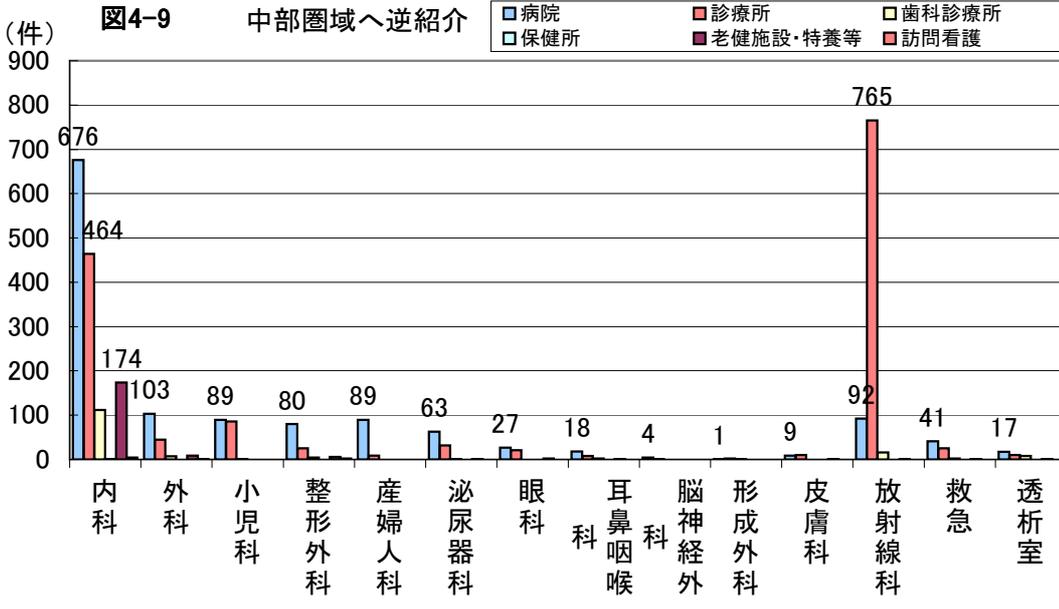
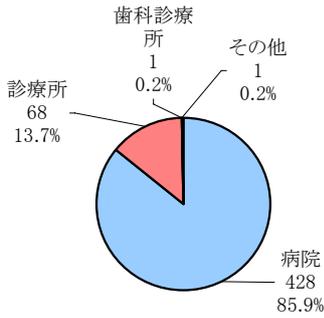
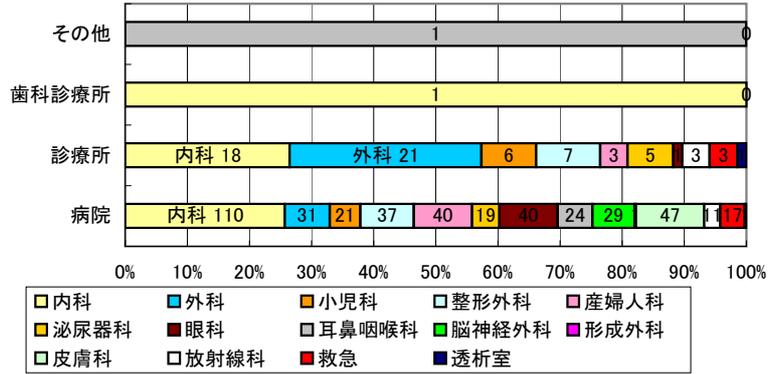


図4-10 南部圏域の医療機関等へ逆紹介  
(n=498)



南部圏域の医療機関等への逆紹介では、病院への紹介が約8割(428件)となっていた。

図4-11 南部圏域へ逆紹介



○病院へは、内科からの逆紹介が多い。  
○診療所へは、外科、内科からの逆紹介が多い。

図4-12 南部圏域へ逆紹介

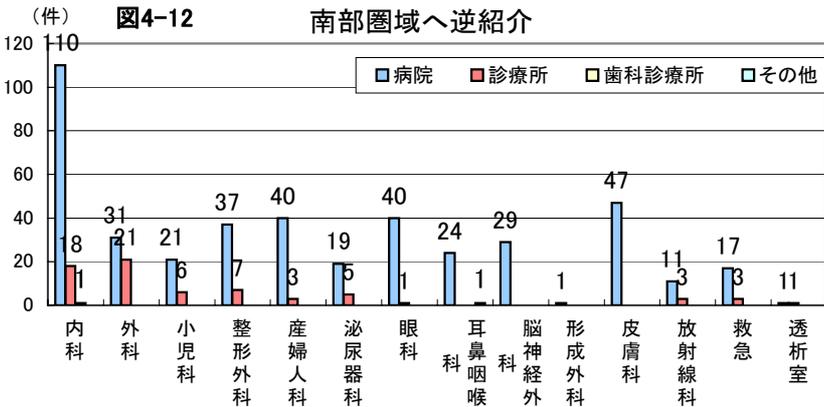
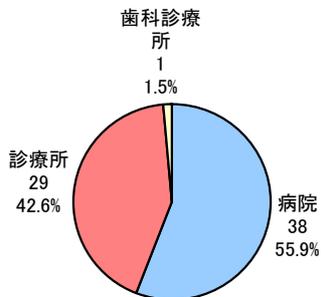
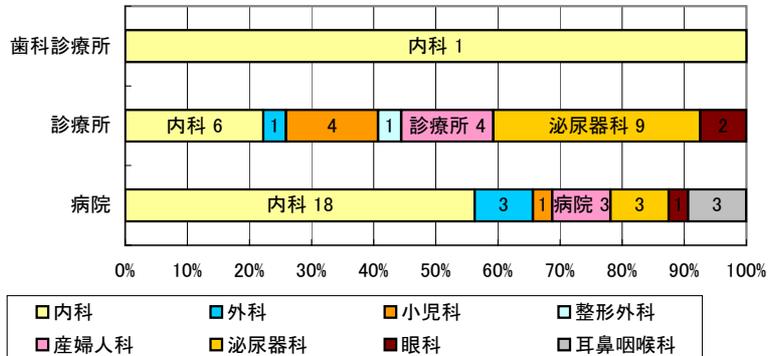


図4-13 北部圏域の医療機関等へ逆紹介  
(n=68)



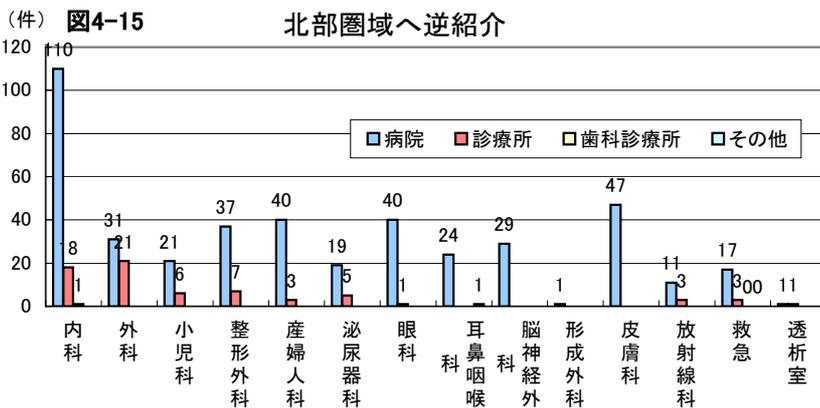
北部圏域の医療機関等への逆紹介では、病院への紹介が 55.9%(38件)、診療所への紹介が 42.6%(29件)となっていた。

図4-14 北部圏域へ逆紹介



○病院へは、内科からの逆紹介が多い。  
○診療所へは、泌尿器、内科からの逆紹介が多い。

図4-15 北部圏域へ逆紹介

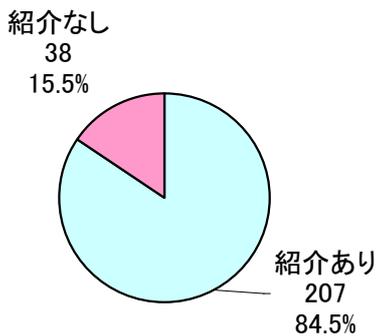


(3) 中部地区医療機関から地域医療支援病院への紹介状況

表10 地域医療支援病院紹介に紹介のあった医療機関数

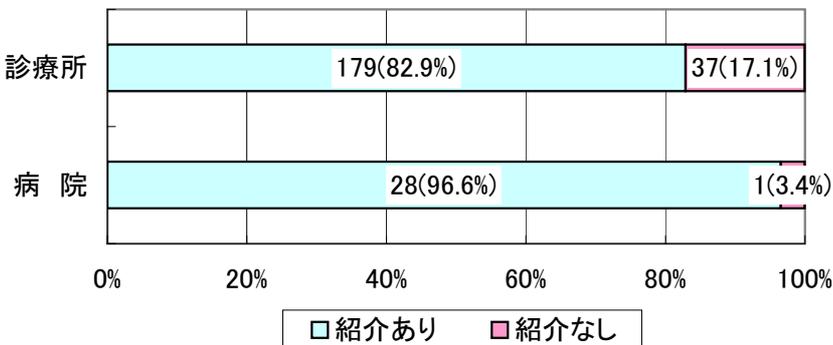
診療種別	件数 (中部地区)	中部地区の地域医療支援病院に紹介		県立中部病院に紹介		中頭病院に紹介	
		紹介あり	紹介なし	紹介あり	紹介なし	紹介あり	紹介なし
病院	29	28	1	27	1	27	1
診療所	216	179	37	169	47	147	69
合計	245	207	38	196	48	174	70

図5-1 中部地区地域医療支援病院に紹介のあった医療機関数・割合(中部地区) n=245



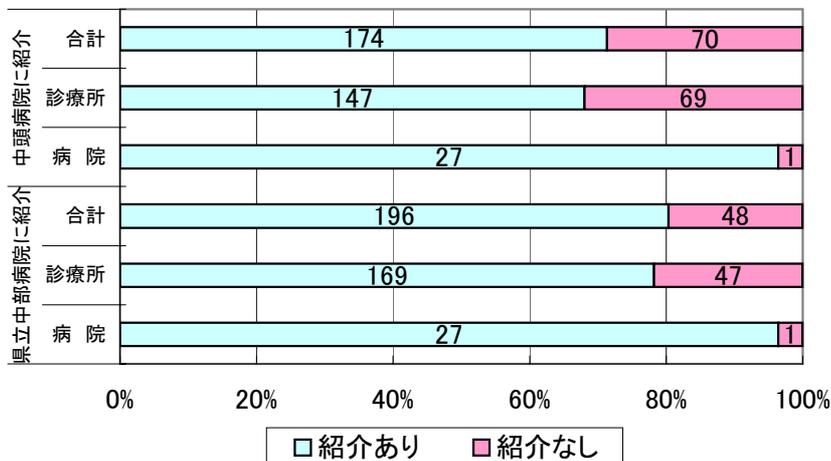
中部地区の医療機関 245件のうち、地域医療支援病院(中部地区)に紹介のあった医療機関は、207件(84.5%)であった。

図5-2 中部地区地域支援病院に紹介した医療機関



中部地区において、診療所では179件(82.9%)が、病院では28件(96.6%)が地域医療支援病院と何らかの連携をとっていた。

図5-3 地域医療支援病院に紹介した医療機関



中部地区の診療所・病院において、県立中部病院とは196件(80.3%)が、中頭病院とは174件(71.3%)が何らかの連携をとっていた。